

IBM WebSphere Commerce - Express



インストール・ガイド
(OS/400 用)

バージョン 5.5

ご注意!

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、105 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書の内容は、新版で特に指定のない限り、WebSphere Commerce - Express バージョン 5.5 以降のすべてのリリースに適用されます。製品のレベルに合った適切な版を使用していることをご確認ください。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： IBM WebSphere Commerce - Express
Installation Guide
for OS/400
Version 5.5

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2003.9

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1996, 2003. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2003

本書について

本書の内容

本書は、IBM® WebSphere® Commerce - Express のメイン・コンポーネントを OS/400® プラットフォームにインストールして構成する方法について説明しています。本書は、システム管理者またはインストールおよび構成タスクを実行する担当者を対象としています。

本書の更新

このインストール・ガイド、および更新版の PDF ファイルは、以下の WebSphere Commerce Technical Library Web サイトから入手できます。

<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>

追加のサポート情報については、WebSphere Commerce サポート・サイトを参照してください。

<http://www.ibm.com/software/commerce/support/>

本製品に対して加えられた最新の変更について知りたい場合は、本製品の更新済みの README ファイルをお読みください。このファイルも、以下の WebSphere Commerce Technical Library Web サイトに掲載されています。

<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>

旧バージョンの WebSphere Commerce とそのサポート製品がすでにあるシステムへのインストールの場合は、「*WebSphere Commerce* マイグレーション・ガイド」を参照してください。

余白にある改訂文字は、本書の前バージョン以降に更新された内容を示します。本書では、改訂文字として以下の表記を使用しています。

- "+" 文字は、本書の現在のバージョンで更新された内容を示します。
- "I" 文字は、本書の以前のバージョンで更新された内容を示します。

本書の表記規則

本書では、以下のような強調規則を使用しています。

太字体	コマンドや、フィールド名、アイコン名、またはメニュー選択などのグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) を示します。
モノスペース (Monospace)	ファイル名、ディレクトリー・パス、ディレクトリーなど、そのとおりに入力する必要があるテキストの例を示します。
イタリック体	語を強調するために使用します。またイタリック体は、システムに合わせて適切な値に置換する必要がある名前を示します。



このアイコンはヒントのマークであり、タスクの実行に役立つ追加情報が示されます。

重要

この項は、特に重要な情報を強調しています。

注意

この項は、データの保護を目的とした情報に重点を置いています。

本書の使用変数

本書で使用している主な変数をいくつか以下に示します。

host_name

この変数は、 WebSphere Commerce サーバーの完全修飾ホスト名 (たとえば、`server.mydomain.ibm.com` という完全修飾名) を表します。

instance_name

この変数は、作業対象の WebSphere Commerce インスタンスの名前 (たとえば `ma111`) を表します。

WAS_instance_name

この変数は、作業している WebSphere Commerce インスタンスに関連付けられた WebSphere Application Server の名前を表します。

cell_name

この変数は、WebSphere Application Server セルの名前を表します。

payments_instance_name

この変数は、作業対象の WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前を表します。

パス変数

本書では、ディレクトリー・パスを表すために以下の変数を使用しています。

Payments_installdir

システム上の WebSphere Commerce Payments のインストール・ディレクトリー `/QIBM/ProdData/CommercePayments/V55` です。

Payments_userdir

WebSphere Commerce Payments で使用されるすべてのデータ (ユーザーによる修正の可能なデータや構成を必要とするデータ) のディレクトリー `/QIBM/UserData/CommercePayments/V55` です。

WAS_installdir

システム上の WebSphere Application Server のインストール・ディレクトリー `/QIBM/ProdData/WebAS5/Base` です。

WAS_userdir

WebSphere Application Server で使用されるすべてのデータ (ユーザーによる修正の可能なデータや構成を必要とするデータ) のディレクトリー
/QIBM/UserData/WebAS5/Base/WAS_instance_name です。

WC_installdir

WebSphere Commerce のインストール・ディレクトリー。この
/QIBM/ProdData/CommerceServer55 には、システム上のすべての所有権付き
WebSphere Commerce データが収容されます。

WC_userdir

WebSphere Commerce で使用されるすべてのデータ (ユーザーによる修正の
可能なデータや構成を必要とするデータ) のディレクトリー
/QIBM/UserData/CommerceServer55 です。

注: これらのデフォルトのインストール・パスは、iSeries™ 上で変更することはできません。 WebSphere Commerce for iSeries 製品は、これらのディレクトリーが存在することを前提としており、存在しない場合は正しく機能しません。

必要な知識

本書は、システム管理者または WebSphere Commerce のインストールおよび構成の担当者を対象としています。

WebSphere Commerce のインストールと構成に携わる担当者には、以下の分野における知識が必要です。

- IBM @server iSeries および OS/400 オペレーティング・システム
- IBM DB2 Universal Database™ for iSeries
- コマンド言語の基本コマンド
- SQL の基本コマンド
- インターネット

ストアを作成してカスタマイズするには、以下の知識が必要です。

- WebSphere Application Server
- HTML および XML
- 構造化照会言語 (SQL)
- Java™ プログラミング

ストアフロントとストア・データ資産の開発に関する詳細は、「*WebSphere Commerce* ストア開発ガイド」を参照してください。ビジネス・ロジック (またはバック・オフィスのビジネス・ロジック) の開発またはカスタマイズの詳細は、「*WebSphere Commerce* プログラミング・ガイドとチュートリアル」の資料を参照してください。

目次

本書について	iii
本書の内容	iii
本書の更新	iii
本書の表記規則	iii
本書の使用変数	iv
パス変数	iv
必要な知識	v

第 1 部 WebSphere Commerce のインストールの準備 1

第 1 章 WebSphere Commerce - Express の紹介 3

WebSphere Commerce - Express に組み込まれている製品	3
サポートされる Web ブラウザー	4
WebSphere Commerce - Express によって使用されるポート番号	5
WebSphere Commerce - Express によって使用されるロケール	6

第 2 章 プリインストール要件 7

前提条件となるハードウェア	7
前提条件となるソフトウェア	7
README ファイルの確認	8

第 3 章 推奨トポロジー 11

1 ノード・トポロジー	11
1 ノード・トポロジーでの WebSphere Commerce - Express のインストール	11
2 ノード・トポロジー	14
開発環境トポロジー	16

第 4 章 iSeries 固有の概念の理解 17

WebSphere Commerce によって使用される OS/400 ファイル・システム	17
QSYS.LIB ファイル・システム	17
ルート・ファイル・システム	18
データベースのレイアウトの照会	19

第 2 部 WebSphere Commerce のインストール 21

第 5 章 WebSphere Commerce のインストール 23

インストール時に必要な ID	24
--------------------------	----

第 6 章 カスタム・インストールの実行 25

グラフィカル・インストールを使用したカスタム・インストール (推奨)	26
カスタム・インストールのコンソール・インストールの完了	29
カスタム・インストールの検証	30

第 7 章 インストールの検証 35

WebSphere Application Server のインストール・ログ	35
WebSphere Commerce のインストール・ログ	36
WebSphere Commerce Payments のインストール	36
次のステップ	37

第 3 部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成 39

第 8 章 構成マネージャーを使用してインスタンスを作成または変更する前に 41

構成マネージャー・クライアントのインストール	41
構成マネージャーの前提条件	42
リモート・データベースを使用したインスタンス作成の要件	42
iSeries ユーザー・プロファイルの変更	43
構成マネージャーの開始	44
構成マネージャーの停止	46
次のステップ	46

第 9 章 WebSphere Commerce インスタンスの作成 47

WebSphere Commerce インスタンス作成時の考慮事項	47
新規 WebSphere Commerce インスタンスの作成	47
インスタンス作成の検証	48
リモート・データベースの構成の完了	49
時間帯の設定	50
次のステップ	50

第 10 章 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成 51

WebSphere Commerce Payments インスタンス作成時の考慮事項	51
新規 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成	52
インスタンスの作成の検証	53
次のステップ	54

第 4 部 最終ステップ 55

第 11 章 インスタンス作成後の必須タスク	57
作成後の Web サーバー・タスク	57
インスタンス作成後のローカル Web サーバー・タスク	57
インスタンス作成後のリモート Web サーバー・タスク	57
<hr/>	
第 5 部 インストールおよび管理タスク	59
<hr/>	
第 12 章 WebSphere Commerce のタスク	61
WebSphere Commerce インスタンスの開始と停止	61
WebSphere Commerce インスタンスの開始	61
WebSphere Commerce インスタンスの停止	62
WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始と停止	63
QShell セッションからの WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始と停止	63
WebSphere Commerce インスタンスまたは WebSphere Commerce Payments インスタンスの変更	64
WebSphere Commerce インスタンスの削除	64
WebSphere Commerce Payments インスタンスの削除	66
第 13 章 WebSphere Application Server のタスク	69
アプリケーション・サーバーの開始および停止	69
WebSphere Application Server 管理コンソールの開始	70
WebSphere Application Server サブシステムの開始	71
QEJBAS5 サブシステムの開始	71
QEJBAS5 サブシステムの終了	71
WebSphere Application Server Web サーバー・プラグイン構成ファイルの再生成	72
第 14 章 リモート Web サーバー・タスク	73
Web サーバーへの plugin-cfg.xml ファイルのコピー	73
WebSphere Commerce Payments の plugin-cfg.xml ファイルのマージ	73
ストア発行後のタスク	75
第 15 章 パスワードの設定および変更	77
構成マネージャー・パスワードの変更	77
WebSphere Commerce サイト管理者パスワードの変更	77
サイト管理者パスワードのリセット	78
サイト管理者 ID のリカバリー	79
第 16 章 Web サーバーのタスク	81

IBM HTTP Server の開始および停止	81
IBM HTTP Server インスタンスの開始	81
IBM HTTP Web サーバー・インスタンスの停止	82
IBM HTTP administrator の開始および停止	83

第 17 章 WebSphere Commerce を管理する際に必要なユーザー ID	85
iSeries ユーザー・プロファイルの作成	86

第 6 部 付録	89
-----------------	-----------

付録 A. 既知の問題および制限	91
Web サーバー問題および制限	91
セキュア (HTTPS) URL が作動しない	91
WebSphere Commerce インスタンスの問題および制限	91
WebSphere Commerce インスタンスが正常に開始しない	91
コンソール・インストールの使用上の注意	93
WebSphere Commerce Payments インスタンスの問題および制限	94
リモート WebSphere Commerce Payments インスタンスが作動しない	94
WebSphere Commerce Payments インスタンスが開始しない	95

付録 B. WebSphere Commerce コンポーネントのアンインストール	97
WebSphere Commerce のアンインストール	97
WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントのアンインストール	97
WebSphere Application Server のアンインストール	98
WebSphere Application Server Network Deployment のアンインストール	98
WebSphere Commerce とそのコンポーネントの再インストール	98

付録 C. 情報の入手場所	101
WebSphere Commerce 情報	101
WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ	101
WebSphere Commerce Technical Library	101
WebSphere Commerce Payments 情報	101
IBM HTTP Server 情報	103
WebSphere Application Server 情報	103
DB2 Universal Database 情報	103
他の IBM 資料	103

特記事項	105
商標	106

第 1 部 WebSphere Commerce のインストールの準備

第 1 章 WebSphere Commerce - Express の紹介

このガイドは、OS/400 で IBM @server iSeries 用の WebSphere Commerce - Express バージョン 5.5 をインストールおよび構成する方法について説明します。これは、システム管理者またはインストールおよび構成タスクを実行する担当者を対象としています。

重要

特に断りがない限り、本書で用いている *WebSphere Commerce* というすべての表現は、WebSphere Commerce - Express を指しています。

WebSphere Commerce - Express に組み込まれている製品

以下の製品が WebSphere Commerce - Express と共にパッケージされています。

- WebSphere Commerce - Express:
 - WebSphere Commerce サーバー。これには以下が含まれます。
 - 商品アドバイザー
 - WebSphere Commerce アクセラレーター
 - WebSphere Commerce 管理コンソール
 - WebSphere Commerce 組織管理コンソール
 - WebSphere Commerce Payments。これには、以下が組み込まれています。
 - WebSphere Commerce Payments Cassette for VisaNet
 - WebSphere Commerce Payments Cassette for BankServACH
 - WebSphere Commerce Payments Cassette for Paymentech
 - WebSphere Commerce Payments CustomOffline Cassette
 - WebSphere Commerce Payments OfflineCard Cassette
 - IBM WebSphere Commerce Analyzer 5.5
- WebSphere Application Server 5.0

重要

すべての WebSphere Commerce - Express コンポーネントとそのサポート・ソフトウェアは、同じオペレーティング・システム上で実行する必要があります。オペレーティング・システムは、7 ページの『第 2 章 プリインストール要件』で概説されている要件を満たしている必要があります。

WebSphere Commerce - Express は、異機種混合のオペレーティング環境をサポートしていません。そのため、複数ノード・トポロジにあるすべてのノードは、7 ページの『第 2 章 プリインストール要件』に記載されている、同じバージョンとレベルのオペレーティング・システムを実行する必要があります。

この唯一の例外は WebSphere Commerce 構成マネージャーで、これは Windows[®] ワークステーションを実行する必要があります。構成マネージャー・クライアントは、@server iSeries マシン上で実行する構成マネージャー・サーバーと通信します。

サポートされる Web ブラウザー

WebSphere Commerce ツールおよびオンライン・ヘルプは、WebSphere Commerce マシンと同じネットワーク上で Windows オペレーティング・システムを実行しているマシンから Microsoft[®] Internet Explorer 6.0 を使用してのみ利用できます。Internet Explorer は、フル・バージョン 6.0 (Internet Explorer 6.0 Service Pack 1 およびインターネット・ツール) であり、Microsoft が提供する最新の重要なセキュリティ上の更新が適用されているものを使用する必要があります。それより前のバージョンでは、WebSphere Commerce ツールの機能は完全にはサポートされません。

シヨッパは、以下の Web ブラウザーのいずれかを使用して Web サイトにアクセスでき、そのすべてが WebSphere Commerce でテスト済みです。

- Windows の場合は AOL 7 以上
- 以下の Microsoft Internet Explorer
 - Windows の場合はバージョン 5.5 以上
 - Macintosh の場合はバージョン 5 以上
- Mozilla バージョン 1.0 以上
- Netscape バージョン 6.0 以上
- Netscape Navigator バージョン 4.6 以上

WebSphere Commerce - Express によって使用されるポート番号

以下に、WebSphere Commerce - Express またはそのコンポーネント製品によって使用されるデフォルトのポート番号のリストを示します。 WebSphere Commerce - Express 以外のアプリケーションではこれらのポートを使用しないでください。ご使用のシステムでファイアウォールが構成されている場合には、これらのポートがアクセス可能になっていることを確認してください。

どのポートが使用中かを知るための手順については、ご使用のオペレーティング・システムの資料を参照してください。

重要

このセクションでは、WebSphere Commerce - Express の付属ソフトウェアで必要なポートだけをリストしています。 IBM 以外のソフトウェアが必要とするポート番号については、IBM 以外のソフトウェア・パッケージに関する資料を参照してください。

ポート番号

使用される

- 21** FTP ポート。このポートは、リモート Web サーバーを使用する WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成する場合に必要です。
- 80** IBM HTTP Server。
- 389** Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ディレクトリー・サーバー。
- 443** IBM HTTP Server - セキュア・ポート。このセキュア・ポートには SSL が必要です。
- 1099** WebSphere Commerce 構成マネージャー・サーバー。
- 2001** IBM HTTP Server 管理ポート。
- 2010** IBM HTTP Server 管理 SSL ポート。
- 2809** WebSphere Application Server ブートストラップ・アドレス。
- 5432** WebSphere Commerce Payments 非セキュア・サーバー。
- 5433** WebSphere Commerce Payments セキュア・サーバー。このセキュア・ポートには SSL が必要です。
- 5557** WebSphere Application Server Internal Java Messaging Service サーバー。
- 5558** WebSphere Application Server Java Messaging Service サーバー・キュー・アドレス。
- 5559** WebSphere Application Server Java Messaging Service 直接アドレス。
- 7873** WebSphere Application Server DRS クライアント・アドレス。
- 8000** WebSphere Commerce ツール。このセキュア・ポートには SSL が必要です。

- 8002** WebSphere Commerce 管理コンソール. このセキュア・ポートには SSL が必要です。
- 8004** WebSphere Commerce 組織管理コンソール. このセキュア・ポートには SSL が必要です。
- 8880** WebSphere Application Server SOAP Connector アドレス。
- 9043** WebSphere Application Server 管理コンソール・セキュア・ポート. このセキュア・ポートには SSL が必要です。
- 9080** WebSphere Application Server HTTP トランスポート。
- 9090** WebSphere Application Server 管理コンソール・ポート。
- 9501** WebSphere Application Server セキュア・アソシエーション・サービス。
- 9502** WebSphere Application Server 共通セキュア・ポート。
- 9503** WebSphere Application Server 共通セキュア・ポート。

WebSphere Commerce - Express によって使用されるロケール

WebSphere Commerce - Express は、有効な Java ロケールのみを使用します。システムに、使用する言語用の適切なロケールがインストールされていることを確認してください。ロケール関連の環境変数が WebSphere Commerce サポート・ロケールを組み込むよう設定されていることを確認してください。

表 1. WebSphere Commerce - Express がサポートする OS/400 ロケール・コード

言語	ロケール・コード
ドイツ語	de_DE
英語	en_US
スペイン語	es_ES
フランス語	fr_FR
イタリア語	it_IT
日本語	ja_JP
韓国語	ko_KR
ブラジル・ポルトガル語	pt_BR
中国語 (簡体字)	zh_CN
中国語 (繁体字)	zh_TW

第 2 章 プリインストール要件

この章では、WebSphere Commerce をインストールする前に行う必要のあるステップについて説明します。

重要

インストールが必ず正常に完了するには、以下のプリインストール・ステップを完了しておく必要があります。

前提条件となるハードウェア

WebSphere Commerce をインストールする前に、以下の最低ハードウェア要件を必ず満たしておかなければなりません。

- 以下のサーバーのいずれか (推奨最低限)。
 - AS/400e™ Server モデル 170、プロセッサ・フィーチャー 2385
 - AS/400e Server モデル 720、プロセッサ・フィーチャー 2062
 - @server iSeries Server モデル 270、プロセッサ・フィーチャー 2252
 - @server iSeries Server モデル 810、プロセッサ・フィーチャー 2465、および 750 の CPW
 - @server iSeries Server モデル 820、プロセッサ・フィーチャー 2396
- 1.5 GB のメモリー (それ以上を推奨)

注: サポートされるユーザーの数が限定されていて、サーバー初期化時間が長くてもかまわない環境では、これらの最低要件を満たさないシステムであっても使用できます。

さらに、以下のものがが必要です。

- Windows オペレーティング・システムを実行し、さらに Internet Explorer などの Web ブラウザーを実行することのできる、グラフィック対応モニターを備えたワークステーション
- マウスまたはその他のポインティング・デバイス
- TCP/IP プロトコルがサポートするローカル・エリア・ネットワーク (LAN) アダプター

前提条件となるソフトウェア

WebSphere Commerce をインストールする前に、以下の最低ソフトウェア要件を必ず満たしておかなければなりません。

- OS/400 バージョン 5 リリース 2 (V5R2M0) 以降 (5722SS1)。以下に例を示します。
 - DB2 Universal Database for iSeries V5R2M0

- ホスト・サーバー (5722SS1 オプション 12)。ホスト・サーバーを始動するには、ホスト・サーバーの始動 (STRHOSTSVR) コマンドを使用して、OS/400 コマンド行に STRHOSTSVR *ALL と入力します。QSERVER サブシステムが、iSeries システム上で稼働していなければなりません。
- QShell インタープリター (5722SS1 オプション 30)
- Portable App Solutions Environment (5722SS1 オプション 33)
- Digital Certificate Manager (5722SS1 オプション 34)
- International Components for Unicode (5722SS1 オプション 39)
- IBM Java Developer Kit バージョン 1.3 (5722JV1 オプション 5)
- IBM HTTP Server Powered by Apache (5722DG1)
- Crypto Access Provider 128-Bit for AS/400® (5722AC3)
- TCP/IP Connectivity Utilities (5722TC1)
- さらに、以下のオプション製品をインストールすることもできます。
 - iSeries Access (5722XW1 オプション *BASE および 1)
 - iSeries Access for Windows (5722XE1)
 - DB2® Query Manager および SQL Development Kit (5722ST1)
 - WebSphere Application Server Network Deployment (5733WS5 オプション 5)
 - LDAP ディレクトリー・サービス (5722SS1)。LDAP 製品は、OS/400 V5R2M0 に組み込まれており、iSeries システムにインストールされることになります。

README ファイルの確認

README ファイルの内容の確認は、WebSphere Commerce のインストールにおける重要な前提条件です。README ファイルには、本製品に対する最新の変更に関する情報が記載されています。最新の変更には、WebSphere Commerce の使用の前にインストールする必要がある追加のフィックスが入っていることがあります。

README ファイルにリストされているすべての最新のフィックスをインストールしないと、WebSphere Commerce が正しく機能しない原因になります。

README ファイルは、WebSphere Commerce ディスク 1 CD のルート・ディレクトリーに置かれています。README ファイルの名前は次のとおりです。

`readme_language_code.htm`

ただし `language_code` は以下のいずれかです。

言語	言語コード
ドイツ語	de_DE
英語	en_US
スペイン語	es_ES
フランス語	fr_FR
イタリア語	it_IT
日本語	ja_JP
韓国語	ko_KR

言語	言語コード
ブラジル・ポルトガル語	pt_BR
中国語 (簡体字)	zh_CN
中国語 (繁体字)	zh_TW

第 3 章 推奨トポロジー

この章では、WebSphere Commerce - Express コンポーネントの推奨トポロジーと、データベース・サーバーや Web サーバーなどのサポート対象ソフトウェアについて説明します。この章で説明しているトポロジーは、WebSphere Commerce - Express で最も一般的に使用されるものですが、WebSphere Commerce - Express のそれ以外のトポロジーも引き続き使用可能です。

すべてのトポロジーで、すべてのノードは同じレベルの同じオペレーティング・システムを実行している必要があります。これには、WebSphere Commerce - Express で必要とされるすべてのパッチ、リビジョン、サービス・パック、またはフィックス・パックが含まれます。

この章では、以下の用語を使用しています。

データベース・ノード

WebSphere Commerce - Express が使用するデータベース・サーバーだけを
含むトポロジーのノード。

Web サーバー・ノード

WebSphere Commerce - Express が使用する Web サーバーだけを含むトポ
ロジーのノード。

WebSphere Commerce ノード

WebSphere Commerce サーバーを含むトポロジーのノード。ノードにはデー
タベース・サーバーまたは Web サーバーが含まれる場合もありますが、ト
ポロジーに応じて、ノードに WebSphere Commerce サーバーが含まれてい
る場合、それは WebSphere Commerce ノードと呼ばれます。

1 ノード・トポロジー

1 ノード・トポロジーでは、すべての WebSphere Commerce - Express コンポーネ
ントおよびサポート対象ソフトウェアが単一のノード上にインストールされます。
これには、データベース・サーバー、Web サーバー、WebSphere Application
Server、WebSphere Commerce Payments、および WebSphere Commerce サーバーが
含まれます。

1 ノード・トポロジーでの WebSphere Commerce - Express のインストール

WebSphere Commerce を 1 ノード・トポロジーでインストールする場合、以下の 2
つのオプションがあります。

高速インストール

マシンが以下の基準を満たしている場合、WebSphere Commerce - Express
を 1 ノード・トポロジーでインストールするには、WebSphere Commerce -
Express インストール・ウィザードの高速インストール・オプションしか使
用できません。

- WebSphere Commerce - Express のいずれのバージョンまたはエディションもマシンにインストールされていない。
- WebSphere Application Server のいずれのバージョンまたはエディションもマシンにインストールされていない。

高速インストール時には、WebSphere Commerce Payments コンポーネントをインストールしないことを選択できますが、他のすべての WebSphere Commerce コンポーネントおよびサポート対象ソフトウェアはインストールされます。

高速インストールでは、すべてのコンポーネントおよびサポート対象ソフトウェアのインストール後に、WebSphere Commerce インスタンスが作成されます。WebSphere Commerce Payments のインストールを選択した場合、WebSphere Commerce Payments インスタンスが作成されます。

高速インストールの実行の手順は、「*WebSphere Commerce - Express Quick Beginnings*」に記載されています。

カスタム・インストール

以下の条件を満たしている場合、WebSphere Commerce - Express を 1 ノード・トポロジでインストールするには、WebSphere Commerce - Express インストール・ウィザードのカスタム・インストール・オプションを使用できます。

- ノードが、WebSphere Commerce - Express のハードウェア、オペレーティング・システム、およびネットワーク要件を満たしている。
- WebSphere Application Server がノードにすでにインストールされている場合には、WebSphere Application Server は WebSphere Commerce - Express がサポートするエディションおよびバージョンの WebSphere Application Server でなければなりません。

WebSphere Application Server バージョン 5.0 またはバージョン 5.0.1 がインストールされている場合、WebSphere Commerce - Express のインストール後に、WebSphere Application Server バージョン 5.0.2 にアップグレードされていることを確認してください。

カスタム・インストールでは、WebSphere Commerce インスタンスまたは WebSphere Commerce Payments インスタンスは作成されません。インスタンスは、インストールの完了後に作成する必要があります。

カスタム・インストールの実行の手順は、「*WebSphere Commerce - Express Installation Guide*」に記載されています。

以下の図は、1 ノード・トポロジーを示しています。



注: WebSphere Commerce 構成マネージャーは、GUI クライアントとサーバーの、2つのコンポーネントで構成されています。構成マネージャー・サーバーは、必ず WebSphere Commerce Server および WebSphere Commerce Payments と同じノードにインストールされます。

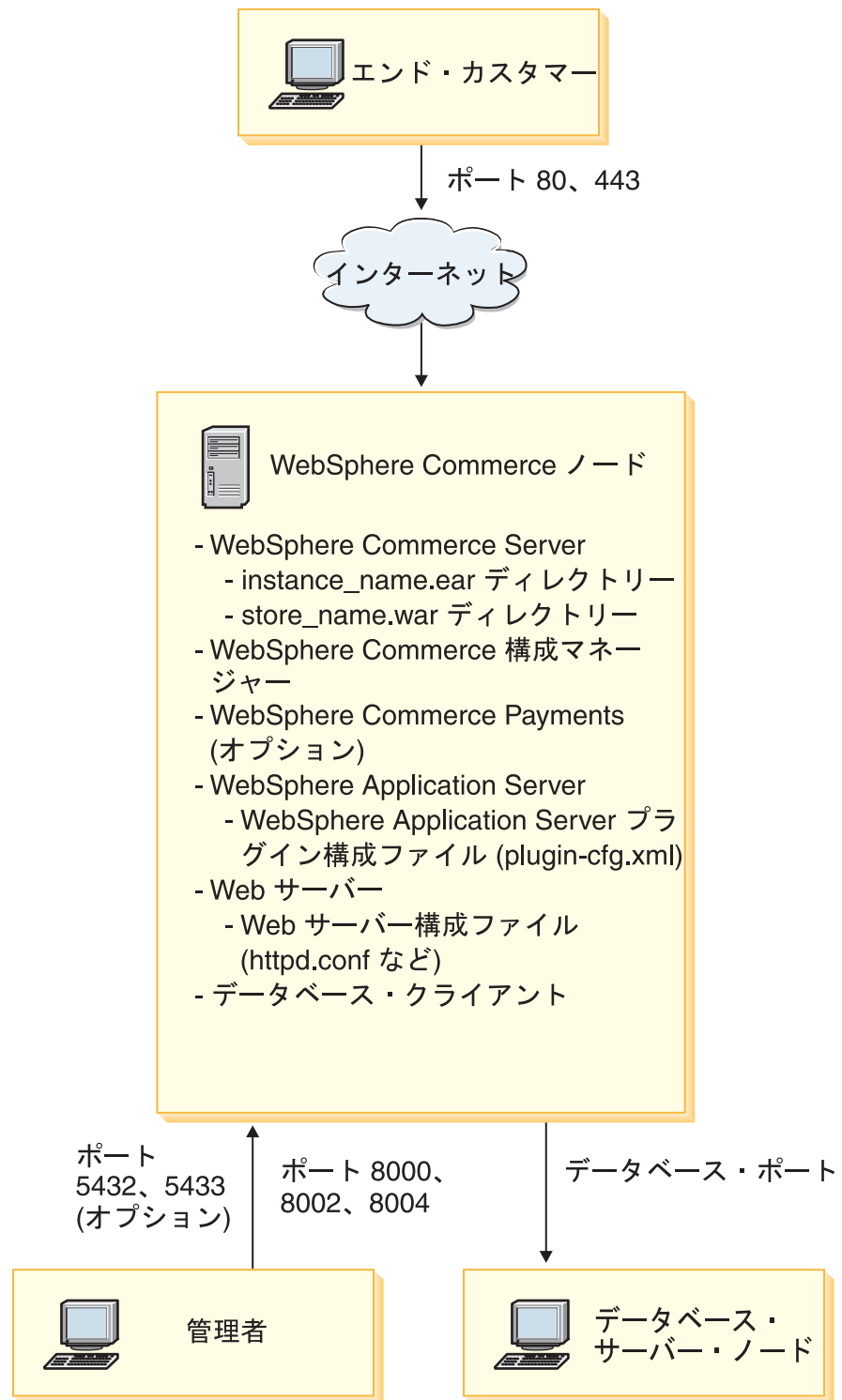
WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントを使用するためには、グラフィックスを表示可能なワークステーション上にクライアント・ソフトウェアをインストールする必要があります。

WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントは、インストール・ウィザードのカスタム・インストール・オプションを使用して、別個にインストールすることができます。

2 ノード・トポロジー

2 ノード・トポロジーでは、データベース・サーバーは 1 ノード上にインストールされ、すべての WebSphere Commerce - Express コンポーネントおよび Web サーバーは別のノード上にインストールされます。

以下の図は、1 ノード・トポロジーを示しています。



注: WebSphere Commerce 構成マネージャーは、GUI クライアントとサーバーの、2 つのコンポーネントで構成されています。構成マネージャー・サーバーは、必ず WebSphere Commerce Server および WebSphere Commerce Payments と同じノードにインストールされます。

WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントを使用するためには、グラフィックスを表示可能なワークステーション上にクライアント・ソフトウェアをインストールする必要があります。

WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントは、インストール・ウィザードのカスタム・インストール・オプションを使用して、別個にインストールすることができます。

開発環境トポロジー

WebSphere Commerce 開発環境は、以下のトポロジーをサポートしています。

1 ノード開発トポロジー

このトポロジーでは、WebSphere Commerce 開発環境のすべてのコンポーネントが単一のノード上にインストールされます。

2 ノード開発トポロジー

このトポロジーでは、データベース・サーバーは 1 ノード上にインストールされ、他のすべての WebSphere Commerce 開発環境コンポーネントはもう 1 つのノード上にインストールされます。

3 ノード開発トポロジー

このトポロジーでは、データベース・サーバーは 1 ノード上にインストールされ、WebSphere Commerce Payments は 2 番目のノード上にインストールされ、残りの WebSphere Commerce コンポーネントは 3 番目のノードにインストールされます。

3 ノード開発トポロジーは、WebSphere Commerce Payments のフルインストールが必要なため、WebSphere Commerce 開発環境インストール・ウィザードによって直接にサポートされてはいません。開発環境で実行する WebSphere Commerce Payments は、このトポロジーではサポートされていません。

WebSphere Commerce 開発環境は、WebSphere Commerce の実動、テスト、およびステージング環境を構成するノードとは別のノードにインストールすることをお勧めします。

開発環境のインストールの手順は、「*WebSphere Commerce - Express Developer Edition Installation Guide*」に記載されています。

第 4 章 iSeries 固有の概念の理解

この章では、IBM @server iSeries および OS/400 オペレーティング・システム独自の概念について説明します。その内容は次のとおりです。

- 統合ファイル・システム (IFS) 内のさまざまなファイル・システムの説明
- WebSphere Commerce システムのファイル編成

WebSphere Commerce によって使用される OS/400 ファイル・システム

Web 資産 (JSP および HTML ファイルなど) の保管場所や、それに対応するファイル・サーバーの構成方法を決定するには、統合ファイル・システム (IFS) を理解していることが重要です。

ファイル・システムは、LU に編成されているストレージの個々のセグメントへのアクセスをサポートします。その LU は、ファイル、ディレクトリー、フォルダー、ライブラリー、およびオブジェクトです。

それぞれのファイル・システムには、ストレージ内の情報との対話に対する一連の論理構造とルールがあります。それらの構造とルールはファイル・システムごとに異なる場合があります。構造とルールの観点からは、ライブラリーを介してデータベース・ファイルおよびその他の各種のオブジェクト・タイプにアクセスするための OS/400 サポートは、1 つのファイル・システムと見なすことができます。同様に、フォルダー構造を介して文書 (実際にはストリーム・ファイル) にアクセスするための OS/400 サポートは、別個のファイル・システムとして動作します。

統合ファイル・システムは、ライブラリー・サポートおよびフォルダー・サポートを別個のファイル・システムとして扱います。その他のタイプの OS/400 ファイル管理サポートは独自の機能をすべて備えており、別個のファイル・システムとして機能します。WebSphere Commerce によって使用される iSeries ファイル・システムを以下に説明します。その他の OS/400 ファイル・システムについては、OS/400 の資料を参照してください。

WebSphere Commerce は統合ファイル・システム内の 2 つの異なるファイル・システムに情報を保管します。それは、*QSYS.LIB* ライブラリー・ファイル・システムとルート・ファイル・システムです。

QSYS.LIB ファイル・システム

QSYS.LIB ライブラリー・ファイル・システムは、iSeries ライブラリー構造をサポートします。このファイル・システムは、データベース・ファイル、およびライブラリー・サポートが管理するその他のすべての iSeries オブジェクト・タイプへのアクセスの手段になります。

インストールおよび構成プロセスによって、QSYS.LIB ファイル・システム内に QWEBCOMM55 ライブラリーが作成されます。これには、以下のタイプのオブジェクトが入っています。

- *MSGF (メッセージ・ファイル)

- *PRDDFN (製品定義オブジェクト)

ルート・ファイル・システム

ルート (つまり /) ファイル・システムは、統合ファイル・システムの階層ディレクトリー構造およびストリーム・ファイル・サポートを最大限に活用します。ルート・ファイル・システムには、DOS および OS/2[®] ファイル・システムの特徴があります。

WebSphere Commerce は分割ルート・ファイル構造を使用します。WebSphere Commerce が使用するデータのうち、ユーザーが変更できるものや構成する必要のあるものはすべて、UserData サブディレクトリーに置かれます。また、すべての WebSphere Commerce の所有データは ProdData サブディレクトリーに置かれます。これは、2 つのタイプの情報の区別を明らかにするために行われています。これにより、将来のマイグレーションができる限り単純化される、ファイルのサービス提供が容易になります。

注:

1. インスタンス・ルート・パスに入っているファイルのみ変更できます。このパスのデフォルトは次のとおりです。

`WC_userdir/instances/instance_name`

`WC_userdir` のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

2. インスタンスのエンタープライズ・アプリケーションをデプロイすると、すべての JSP ファイルおよびその他の資産は以下の場所に保管されます。

`WAS_userdir/installedApps/cell_name/WC_instance_name.ear`

このディレクトリーにあるファイルも変更可能です。`WAS_userdir` のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

WebSphere Commerce が特定のインスタンス用に構成されると、構成マネージャーは選択された構成オプションの必須ファイルをすべて `WC_userdir` パスにコピーします。以下のパスにある元のファイルは変更しないでください。

`WC_installdir`

`WC_installdir` および `WC_userdir` のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

重要: PTF を適用したり、製品を再インストールすると、ProdData ディレクトリー・パスにあるファイルが削除されたり、上書きされることがあります。そのため、ProdData ディレクトリー・パスにはカスタマイズ済みファイルを保管しないでください。

以下の表は、WebSphere Commerce のインストールおよび構成プロセスによって作成され、ルート・ファイル・システムに保管されるディレクトリーおよびストリーム・ファイルをリストしています。ディレクトリー・パス `/instance_root/` は、ディレクトリー・パス `WC_userdir/instances/instance_name` を指しています。ここで、`instance_name` は構成時にインスタンスに指定した名前です。

パス	意味
<code>/instance_root/xml/instance_name.xml</code>	インスタンス構成ファイル。このファイルには、WebSphere Commerce サーバーの構成設定が入っています。
<code>/instance_root/web</code>	IBM HTTP Server 文書ルート・ディレクトリー。
<code>/instance_root/conf</code>	IBM HTTP Server 構成ファイル (httpd.conf) が置かれているディレクトリー。
<code>WAS_userdir/installedApps/ cell_name/ WC_instance_name.ear</code>	インスタンス・プロパティ・ファイルが置かれるディレクトリー。カスタマイズ済み資産の正確な場所については、「WebSphere Commerce プログラミング・ガイドとチュートリアル」を参照してください。
<code>/instance_root/logs</code>	WebSphere Commerce ログ・ファイルが置かれているディレクトリー。
<code>/instance_root/xml</code>	WebSphere Commerce インスタンス構成 XML ファイルが置かれているディレクトリー。

`WAS_userdir` のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

データベースのレイアウトの照会

SQL ステートメントを使用して、データベース・レイアウトに関する情報を照会することができます。DB2/400 Query Manager と SQL Development Kit を使用するか、または iSeries ナビゲーターを使用することができます。iSeries Access を使用してデータベース照会を実行するには、以下のようにします。

1. インストール先の PC から iSeries ナビゲーターを開始します。
2. 「データベース (Databases)」を展開してから該当するリレーショナル・データベースを右マウス・ボタンでクリックし、「SQL スクリプトの実行」を選択します。「SQL スクリプトの実行」ウィンドウが開きます。
3. 必要な SQL ステートメントをウィンドウに入力します。たとえば、以下のようになります。

- データベース内のすべてのテーブルのリストを表示するには、以下のように入力します (大文字のみで 1 行に入力します)。

```
SELECT TABLE_NAME FROM QSYS2.SYSTABLES WHERE  
TABLE_SCHEMA='DB_SCHEMA_NAME'
```

- 特定のテーブルにある列にリストを表示するには、以下のように入力します (1 行で)。

```
SELECT * FROM QSYS2.SYSCOLUMNS WHERE TABLE_SCHEMA='DB_SCHEMA_NAME'  
AND TABLE_NAME='TABLE_NAME'
```

- 特定のテーブルにあるレコードを表示するには、以下のように入力します。

```
SELECT * FROM 'DB_SCHEMA_NAME'.'TABLE_NAME'
```

詳細は次のとおりです。

'DB_SCHEMA_NAME'

インスタンス・データベースの名前。

'TABLE_NAME'

照会するデータベース・テーブルの名前。

これらの SQL ステートメントやそれ以外の SQL ステートメントに関する詳細は、以下の Web サイトに掲載されている「*DB2 Universal Database for iSeries SQL Reference*」を参照してください。

<http://publib.boulder.ibm.com/html/as400/infocenter.html>

第 2 部 WebSphere Commerce のインストール

第 5 章 WebSphere Commerce のインストール

この章の解説では、1 つのノードでの WebSphere Commerce のインストールと構成を順を追って説明しています。そのインストールには、次のような前提条件があります。

- 7 ページの『第 2 章 プリインストール要件』に概略されているハードウェアとソフトウェアのすべての前提条件がシステムで満たされている。

次のようなインストール・オプションを利用することができます。

高速インストール:

単一のノードにすべての WebSphere Commerce コンポーネントをインストールするには、高速インストールを実行します。そのノードには、どの WebSphere Commerce -Express コンポーネントまたは WebSphere Application Server もインストールされてはなりません。高速インストールの実行の手順については、「*WebSphere Commerce - Express Quick Beginnings*」に記載されています。

カスタム・インストール:

カスタム・インストールを使用すると、複数のノードに WebSphere Commerce コンポーネントをインストールすることができます。WebSphere Commerce に対してリモート側で WebSphere Commerce Payments を実行する予定の場合、カスタム・インストールを実行します。

すべてのノードが、7 ページの『第 2 章 プリインストール要件』にリストされているオペレーティング・システム要件を満たす同一のオペレーティング・システムを実行していなければなりません。

以下のいずれかの理由がある場合、カスタム・インストールを実行してください。

- WebSphere Commerce インストール・ウィザードで WebSphere Commerce インスタンスおよび WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成したくない。インストール・ウィザードの高速インストール・オプションでは、WebSphere Commerce インスタンスおよび WebSphere Commerce Payments インスタンスが作成されます。
- ご使用の @server iSeries システムにすでに WebSphere Application Server バージョン 5.0 がインストールされている。
- WebSphere Commerce Payments を WebSphere Commerce ノードからリモートにインストールしたい。
- WebSphere Commerce の特定のコンポーネントだけをインストールしたい。

カスタム・インストールの実行方法は、25 ページの『第 6 章 カスタム・インストールの実行』に説明されています。

ご注意!

ご使用の iSeries システムに WebSphere Application Server バージョン 5.0 がインストールされていない場合、いくつかのコンポーネントのカスタム・インストール中にインストールされます。 WebSphere Application Server 5.0 製品のインストールでは、ご使用の iSeries システムに WebSphere MQ classes for Java 製品 (5639C34) がインストールされていない場合、それもインストールします。

iSeries がサブシステム QMQM をアクティブにしている場合、製品番号 5639C34 のインストールは失敗します。 WebSphere Commerce および WebSphere Application Server のインストールを開始する前に、サブシステム QMQM が終了していることを確認してください。

インストール時に必要な ID

WebSphere Commerce をインストールして構成するためには、USRCLS(*SECOFR) iSeries ユーザー・プロファイルを使用するか、または QSECOFR ユーザー・プロファイルを使用する必要があります。 86 ページの『iSeries ユーザー・プロファイルの作成』を参照して、以下のいずれかを行ってください。

- ユーザー・プロファイルを作成する。
- 既存の iSeries ユーザー・プロファイルが正しくローカライズ設定されていることを確認する。

第 6 章 カスタム・インストールの実行

カスタム・インストールを実行する場合、以下の各コンポーネントを別々のノードでインストールできます。

WebSphere Commerce コンポーネント

WebSphere Commerce サーバー

このコンポーネントは、WebSphere Commerce Payments を除くすべての WebSphere Commerce - Express の機能を提供します。

このコンポーネントを選択すると、ノードに以下のものがインストールされます。

- WebSphere Commerce サーバー
- WebSphere Commerce 構成マネージャー・サーバー
- WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ
- WebSphere Commerce サンプル・ストア
- WebSphere Application Server 基本製品

リモートまたはローカル DB2 Universal Database で WebSphere Commerce サーバー・コンポーネントを使用する場合、WebSphere Commerce サーバー・コンポーネントのインストール時に必要な余分のステップはありません。

WebSphere Commerce ファイルの例

このコンポーネントは、商品アドバイザー、Web サービスおよび Payments 用を含む、さまざまなサンプル・ファイルを提供します。

WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ

このコンポーネントは、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプ (WebSphere Commerce Payments を含む) をインストールします。このコンポーネントをインストールすると、iSeries システムにオンライン・ヘルプ・ファイルがコピーされますが、HTTP 経由でファイルを表示するための Web サーバーはインストールされません。このファイルは、ノードのファイル・システムからファイルを開くことによってのみ表示できます。

複数ノード・トポロジーを使用する場合は、Web サーバー・ノード上にこのコンポーネントをインストールします。

WebSphere Commerce Payments

このコンポーネントは、WebSphere Commerce Payments のすべての機能をインストールします。

このコンポーネントを選択すると、ノードに以下のものがインストールされます。

- WebSphere Commerce Payments
- WebSphere Commerce 構成マネージャー・サーバー
- WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ

- WebSphere Application Server 基本製品

リモートまたはローカル DB2 Universal Database で WebSphere Commerce Payments コンポーネントを使用する場合、WebSphere Commerce Payments コンポーネントのインストール時に必要な余分のステップはありません。

注: WebSphere Commerce - Express で FashionFlow サンプル・ストアを発行することを計画している場合、WebSphere Commerce Payments をインストールする必要があります。FashionFlow サンプル・ストアの詳細については、「WebSphere Commerce サンプル・ストア・ガイド」を参照してください。

WebSphere Commerce Payments は、ExpressStore.sar ストア・アーカイブ・ファイルの発行には不要です。Express ストアの詳細については、「WebSphere Commerce - Express Easy Start Guide」を参照してください。

次の 2 つの方法で WebSphere Commerce - Express バージョン 5.5 コンポーネントをインストールできます。

- Windows 2000 マシン、または Universal Disk Format (UDF) CD (推奨方法) をサポートする任意のバージョンの Windows マシンから。
 - Windows マシンは、CD ドライブを備えており、@server iSeries マシンと同じ TCP/IP ネットワーク上で接続されている必要があります。
 - GUI インストール・パネルに従って、インストール・プロセスを順にたどっていきます。ご使用のネットワークおよび @server iSeries マシンに応じて、インストール時間は最大 3 時間かかる場合があります。
 - このタイプのインストールは、グラフィカル・インストール と呼ばれます。
- iSeries 5250 セッション (代替方式) から
 - OS/400 コマンド行インストールによって、一連のインストール・プロセスを実行できます。
 - ご使用の @server iSeries マシンに応じて、インストール時間は 3 時間またはそれ以上かかる場合があります。
 - このタイプのインストールは、コンソール・インストール と呼ばれます。

これらのタイプのインストールの詳細なステップについては、以下のセクションを参照してください。

グラフィカル・インストールを使用したカスタム・インストール (推奨)

グラフィカル・インストールを使用してカスタム・インストールを実行するには、以下のようにします。

1. リモート Windows システムの CD-ROM ドライブに WebSphere Commerce - Express CD 1 を挿入します。

WebSphere Commerce - Express LaunchPad が開始します。LaunchPad で使用する言語を選択し、「OK」をクリックして続けます。

注: 言語選択は、WebSphere Commerce - Express の各国語バージョンだけで選択可能であり、英語バージョンでは選択できません。

LaunchPad は以下のオプションを提供しています。

ReadMe ファイル (ReadMe File)

このオプションは WebSphere Commerce - Express README ファイルを表示します。

クイック・スタート・ガイド (Quick Beginnings Guide)

このオプションは、Adobe Acrobat Reader が LaunchPad を実行するシステム上にインストールされていれば、「*WebSphere Commerce - Express Quick Beginnings*」の PDF バージョンを開きます。

インストール製品 (Install Product)

このオプションは WebSphere Commerce - Express インストール・ウィザードを開始します。

製品ライブラリー (Product Library)

このオプションは、WebSphere Commerce ライブラリー Web サイトを表示するデフォルトの Web ブラウザーをオープンします。

サポート (Support)

このオプションは、WebSphere Commerce サポート Web サイトを表示するデフォルトの Web ブラウザーをオープンします。

終了 (Exit)

このオプションは LaunchPad を終了します。

CD の挿入時に LaunchPad が自動的に開始しない場合は、以下を実行します。

- a. コマンド・プロンプト・セッションを開始します。
- b. ディレクトリーを WebSphere Commerce CD 1 CD-ROM ドライブに切り替えます。
- c. 以下のコマンドを入力します。

```
autorun.exe
```

「製品のインストール (Install Product)」を選択して、インストール・ウィザードを開始します。

注: LaunchPad からインストール・ウィザードを開始したくない場合は、以下のようにします。

- a. コマンド・プロンプト・セッションを開始します。
- b. ディレクトリーを WebSphere Commerce - Express CD 1 CD-ROM ドライブに切り替えます。
- c. 以下のコマンドを入力します。

```
iSeriesServer.bat
```

2. しばらくすると、@server iSeries ログオン情報ウィンドウが表示されます。WebSphere Commerce コンポーネントをインストールする @server iSeries システムのシステム名、ユーザー・プロファイル、およびパスワードを入力します。@server iSeries システムに SECOFR クラス権限を持つユーザーとしてログオンします。「次へ」をクリックします。

3. 各国語バージョンの場合のみ、インストール言語を選択してから、「OK」をクリックします。システムの言語設定に関係なく、ソフトウェアはこの言語でインストールされます。

英語バージョンの場合、選択パネルは表示されません。デフォルトではインストール言語は英語 (en_US) です。

4. 「ウェルカム」パネルを読んでから、「次へ」をクリックします。
5. 「ソフトウェア使用許諾契約書 (Software License Agreement)」パネルが表示されます。使用許諾契約書の条件を確認します。

使用許諾契約書の条件を受諾する場合、「**I accept the terms in the license agreement (使用条件の条項に同意します)**」を選択して、「次へ」をクリックし、条件を受諾します。

使用許諾契約書の条件を受け入れない場合、「**I do not accept the terms in the license agreement (使用条件の条項に同意しません)**」を選択して、「次へ」をクリックします。「このライセンス情報に同意しない、で正しいですか?」というメッセージを示した確認ウィンドウが表示されます。「はい」をクリックしてインストール・プログラムを終了するか、または「いいえ」をクリックして「ソフトウェア・ライセンス契約 (Software License Agreement)」パネルに戻ります。

6. 使用許諾契約書に同意すると、「インストール・タイプ」パネルが表示されます。「カスタム・インストール」を選択して、「次へ」をクリックします。
7. ノードにインストールするコンポーネントを選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。

注: 各コンポーネントの説明はこの章の最初の方に記載されています。

WebSphere Commerce のデフォルトの宛先ディレクトリーが表示されます。

WebSphere Commerce Payments が選択されている場合、WebSphere Commerce のデフォルトの宛先ディレクトリーも表示されます。

「次へ」をクリックして先へ進みます。

8. WebSphere Commerce のサンプル・ファイルだけをインストールする場合は、ステップ 10 に進みます。
9. インストールしたい資料の言語を選択して、「次へ」をクリックします。
10. インストールの選択内容を確認して、「次へ」をクリックします。(選択を変更する場合には、「戻る」をクリックします。)
11. WebSphere Commerce のサンプル・ファイルまたは WebSphere Commerce オンライン・ヘルプだけをインストールする場合は、ステップ 15 (29 ページ) に進みます。
12. WebSphere Commerce Server コンポーネントまたは WebSphere Commerce Payments をインストールする場合で、@server iSeries システムにすでに WebSphere Application Server バージョン 5.0 製品がインストールされている場合は、ステップ 15 (29 ページ) に進みます。それ以外の場合、WebSphere Application Server for @server iSeries Disk 1 CD を Windows システムの CD-ROM ドライブに挿入して、「次へ」をクリックします。DOS ウィンドウが開きます。WebSphere Application Server 製品のインストールの詳細情報が表示されます。

13. 同じ DOS ウィンドウで、以下のメッセージが表示される場合、WebSphere Application Server for @server iSeries Disk 2 CD を Windows システムの CD-ROM ドライブに挿入して、**Enter** を押します。

Insert disk 2 or 2. Please press Enter key when ready.

インストールが完了すると、以下のメッセージが表示されるはずですが、

Installation completed successfully.

Please read the Installation and Initial Configuration documentation.

Please press the Enter key to end the installation program.

Enter を押すと、DOS ウィンドウが閉じます。

14. WebSphere Commerce のインストール画面に戻ります。画面に以下のメッセージが表示されるまで待ちます。

Insert the IBM WebSphere Commerce - Express CD 1 and specify the location of the CD-ROM drive below.

ドライブから WebSphere Application Server CD を取り出して、WebSphere Commerce - Express Disk 1 CD を CD-ROM ドライブに挿入します。「次へ」をクリックします。

注: CD-ROM ドライブの場所はすでに入力済みとなっています。このドライブは、WebSphere Commerce のインストールが開始されたドライブであるはずですが、

15. WebSphere Commerce インストールが開始されます。完了したパーセントを示すウィンドウが画面の下隅に表示されます。

16. 「InstallShield ウィザード」パネルで、「次へ」をクリックして先へ進みます。

17. 「インストール完了」パネルから、「終了」をクリックして、インストール・ウィザードを終了することができます。

「Express LaunchPad」ウィンドウが表示されます。「LaunchPad」ウィンドウから、他のオプションを選択することができます。

注: カスタム・インストールが完了したら、WebSphere Application Server の PTF および該当する OS/400 製品の PTF を適用する必要があります。この PTF の適用の詳細については、WebSphere Commerce 製品の README ファイルを参照してください。最新バージョンの README は、WebSphere Commerce Technical Library Web サイト (<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>) から入手できます。

カスタム・インストールが完了したら、30 ページの『カスタム・インストールの検証』に進みます。

カスタム・インストールのコンソール・インストールの完了

コンソール・インストールを完了する前に、93 ページの『コンソール・インストールの使用上の注意』を確認する必要があります。

コンソール・インストールを使用してカスタム・インストールを実行するには、以下のようにします。

1. WebSphere Commerce のインストール先の @server iSeries システムにログオンします。必ず SECOFR クラス権限を持つユーザーとしてログオンします。

2. WebSphere Commerce - Express CD 1 を @server iSeries CD-ROM ドライブに挿入します。

3. 以下のコマンドを使用して PASE シェルを入力します。

```
CALL QP2TERM
```

4. 以下のコマンドを入力してインストーラーを開始します。

```
/qopt/WC55/setup.qsh
```

注: コマンドは示されたとおりに入力します。最初にディレクトリーに進んでからコマンドを入力すると、インストールが失敗する原因になります。

5. 各国語バージョンの場合のみ、インストール言語を選択します。システムの言語設定に関係なく、ソフトウェアはこの言語でインストールされます。

英語バージョンの場合、選択パネルは表示されません。デフォルトではインストール言語は英語 (en_US) です。

6. 「ウェルカム」画面が表示されます。

7. 「使用許諾契約書」が表示されます。

8. 「カスタム・インストール」を選択します。

9. インストールする 1 つ以上のコンポーネントを選択します。

10. 選択したコンポーネントの宛先ディレクトリーが表示されます。

11. 選択したコンポーネントによって、表示される情報とプロンプトが異なります。表示される説明に従って残りのパネルをナビゲートし、要求された場合は WebSphere Application Server CD を挿入します。

12. インストールが完了すると、以下のメッセージが通知されます。

```
The InstallShield Wizard has successfully installed IBM WebSphere Commerce.
```

13. ウィザードを終了してから、**F3** を押して QP2TERM セッションを終了します。

注: カスタム・インストールを完了したら、WebSphere Application Server の PTF および適用可能な OS/400 製品の PTF を適用する必要があります。この PTF の適用に関する詳細は、WebSphere Commerce 製品の README ファイルを参照してください。最新バージョンの README は、WebSphere Commerce Technical Library Web サイト (<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>) から入手できます。

カスタム・インストールが完了したら、『カスタム・インストールの検証』に進みます。

カスタム・インストールの検証

WebSphere Commerce のカスタム・インストールが正常に完了したことを検証するには、以下のようにします。

1. 以下のライブラリーが @server iSeries システムに存在していなければなりません。

- WebSphere Commerce Server、WebSphere Commerce サンプル・ファイルまたは WebSphere Commerce オンライン・ヘルプの場合 - ライブラリー QWEBCOMM55

- WebSphere Commerce Payments の場合 - ライブラリー QCPYMS および QCPYMS55
 - WebSphere Application Server の場合 - ライブラリー QEJBAS5
2. インストール済みのコンポーネントに応じて、@server iSeries システムの Integrated File System (IFS) は、以下のディレクトリーの 1 つ以上を持つこととなります。
 - /QIBM/ProdData/CommerceServer55
 - /QIBM/ProdData/CommercePayments/V55
 - /QIBM/ProdData/WebAS5
 3. iSeries Navigator を使用して、ご使用の @server iSeries システム上にインストールされている製品を以下のようにして表示することができます。
 - a. iSeries ナビゲーターがアクセスできる PC 上で、「スタート」→「プログラム」→「IBM iSeries Access for Windows」→「iSeries ナビゲーター」とクリックします。
 - b. iSeries ナビゲーター・ウィンドウで、「マネージメント・セントラル」→「エンドポイント・システム」と拡張表示します
 - c. 該当する iSeries システムを右マウス・ボタン・クリックして、「インベントリー」→「収集」をクリックします。
 - d. 新規ウィンドウが開きます。「ソフトウェア」ボックスがチェックされていることを確認します。「OK」をクリックして、収集を開始します。
 - e. 「マネージメント・セントラル」→「タスク・アクティビティ」→「インベントリー」を開きます。
 - f. 右側のパネルには、iSeries システムのタスクがリストされているはずですが、状況が「完了」と表示されるまで、**F5** キー (最新表示) を押します。
 - g. 「マネージメント・セントラル」→「エンドポイント・システム」→「iSeries システム」→「構成およびサービス」→「ソフトウェア・インベントリー」→「インストールされている製品」とクリックします。
 - h. 右側のパネルには、製品のリストが表示されます。リストの末尾までスクロールして WebSphere Commerce 製品を確認します。

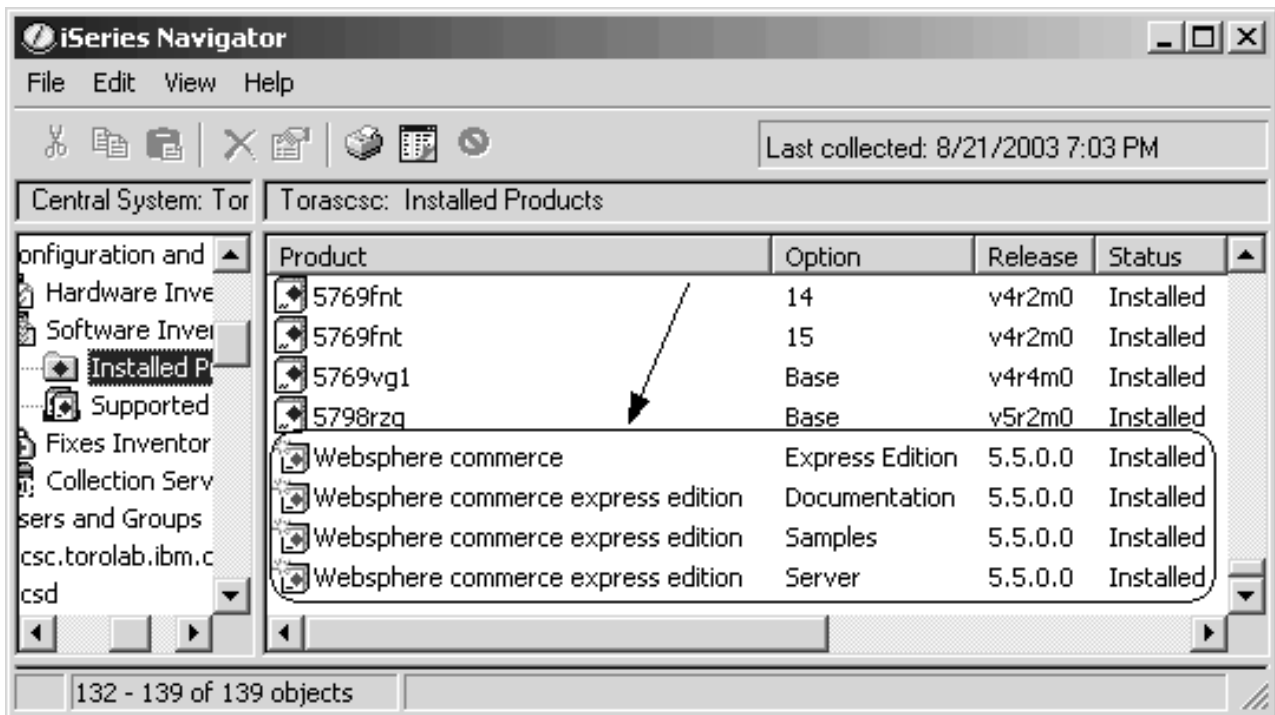


図1. WebSphere Commerce Server インストールの製品

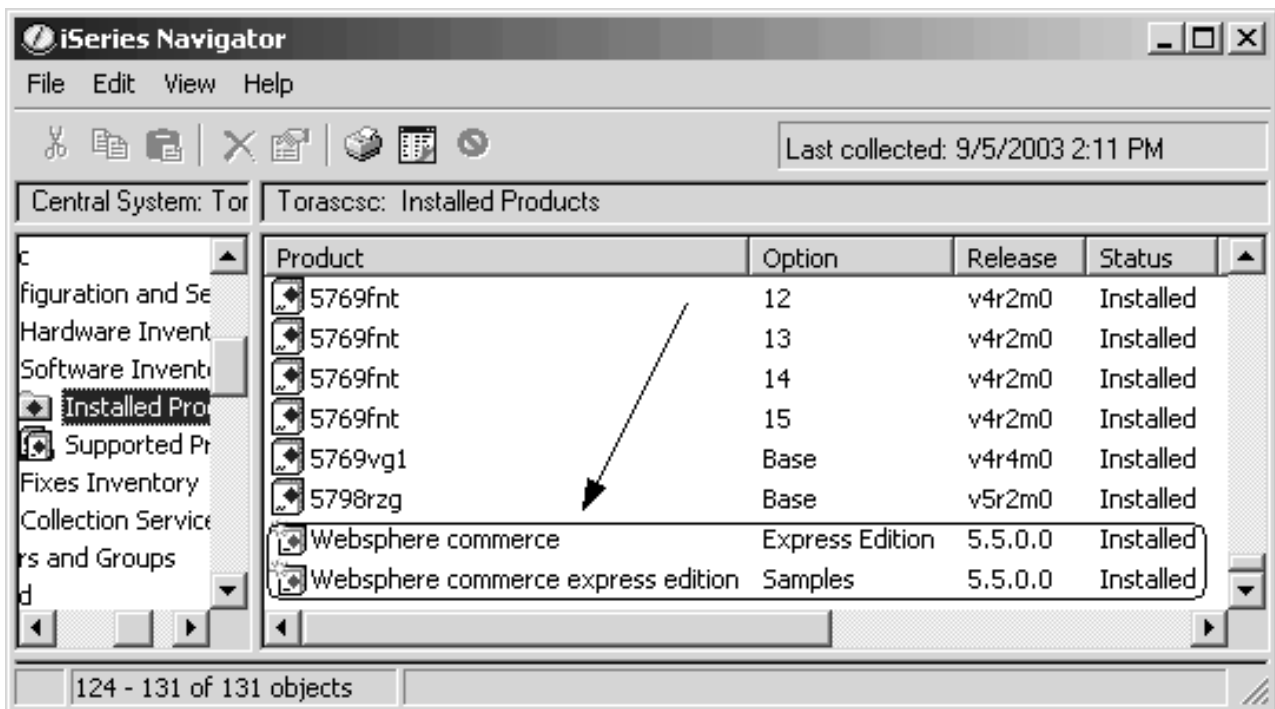


図2. WebSphere Commerce サンプル・ファイル・インストールの製品

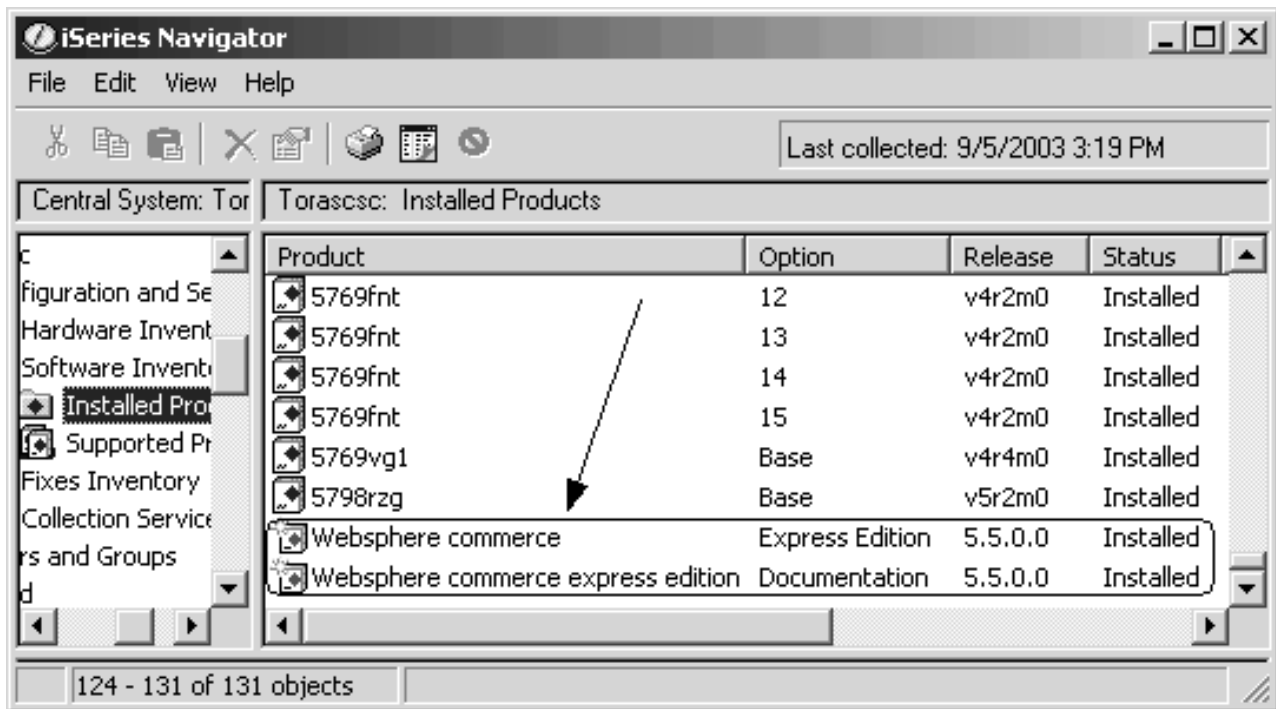


図3. WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ・インストールの製品

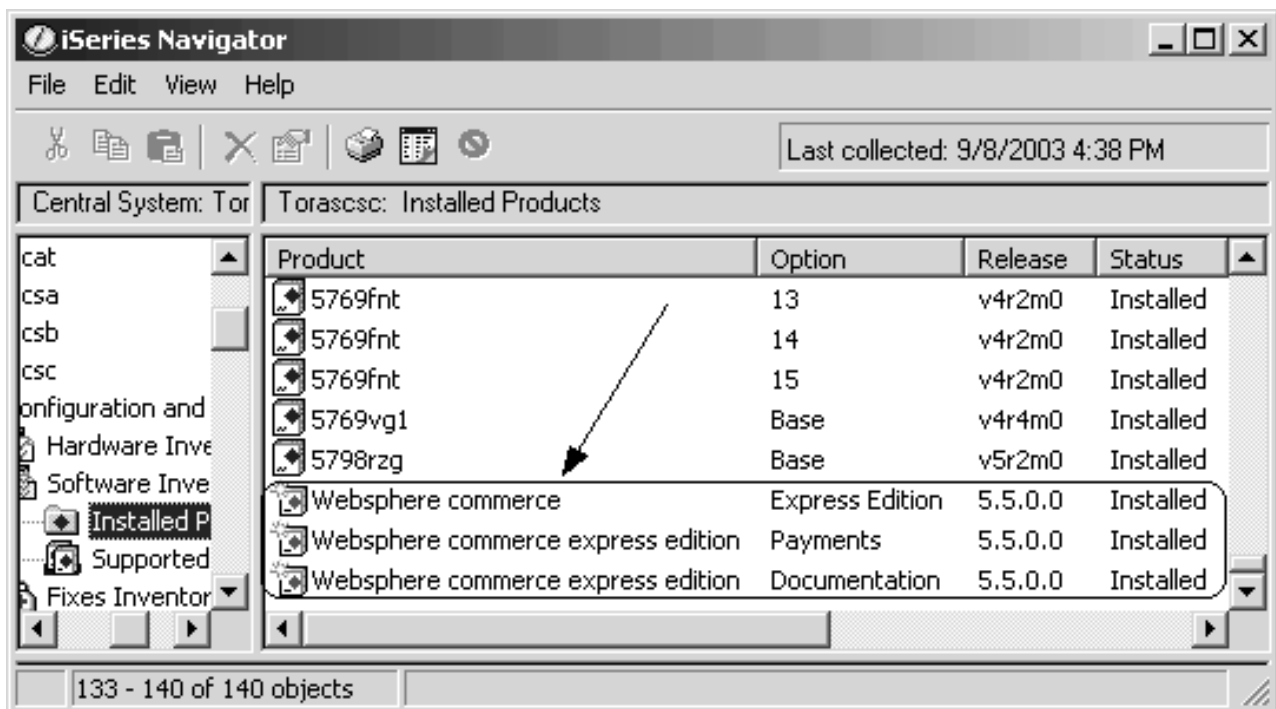


図4. WebSphere Commerce Payments インストールの製品

35 ページの『第 7 章 インストールの検証』に進みます。

第 7 章 インストールの検証

WebSphere Commerce - Express をインストールすると、ご使用の iSeries システムのライセンス情報テーブルにエントリーが作成されます。

注: カスタム・インストール時に、WebSphere Commerce サンプル・ファイル、WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ、または WebSphere Commerce Payments しかインストールされない場合、ライセンス・テーブルにはエントリーは作成されません。ライセンス・テーブルにエントリーを作成するには、WebSphere Commerce Server コンポーネントをインストールする必要があります。

WebSphere Commerce- Express 製品についての情報を変更するには、以下のようになります。

1. iSeries コマンド行から、以下のコマンドを入力します。

```
WRKLICINF
```

2. **Product 5724A18** までスクロールダウンして、「**OPT**」フィールドに **2** を入力します。
3. 「**USGLMT**」フィールドで、ライセンス交付を受けたプロセッサの数に値を変更します。
4. Enter を押します。追加のパラメーターが表示されます。
5. 必要な場合は追加のパラメーターを変更します。
6. Enter を押して、変更内容を受け入れます。

WebSphere Commerce とそのコンポーネントのインストール時にはログ・ファイルが生成されます。以下のログ・ファイルを調べて、インストールが正常に完了したことを確認してください。

- 『WebSphere Application Server のインストール・ログ』
- 36 ページの『WebSphere Commerce のインストール・ログ』

IBM 以外のソフトウェアのインストールを確認するには、そのソフトウェアのパッケージに添付されている資料を参照してください。

WebSphere Application Server のインストール・ログ

WebSphere Application Server インストール・ログ・ファイル (WS51STDOUT.LOG) は、以下のディレクトリーのいずれかに配置されています。

- グラフィカル・インストールの場合は、ログ・ファイルはインストールが完了した Windows PC 上に配置されます。ログ・ファイルは、インストール開始時にサインオンした PC ユーザーの一時フォルダーに配置されます。例えば、Windows 2000 PC では、ログ・ファイルは次のディレクトリーに配置されます。

```
drive:/Documents and Settings/PC_user/Local Settings/Temp/WebSphere
```

- コンソール・インストールの場合は、ログ・ファイルは iSeries システム上の次のディレクトリーに配置されます。

/tmp/WebSphere

ログ・ファイルに次のメッセージが示されていれば、WebSphere Application Server のインストールは完了したということです。

```
Installation completed successfully
```

WebSphere Commerce のインストール・ログ

このログ・ファイルには、WebSphere Commerce インストール・ウィザードによって生成されたメッセージが含まれています。このログ・ファイルのデフォルト・ロケーションは次のとおりです。

```
/InstallLogs/install_date_time.log
```

このログ・ファイルは、Windows システムからリモートにインストールする場合でも、必ず iSeries システムに置かれます。

WebSphere Commerce のインストールが正常に実行された場合、ログ・ファイルの末尾に以下のメッセージが表示されます。

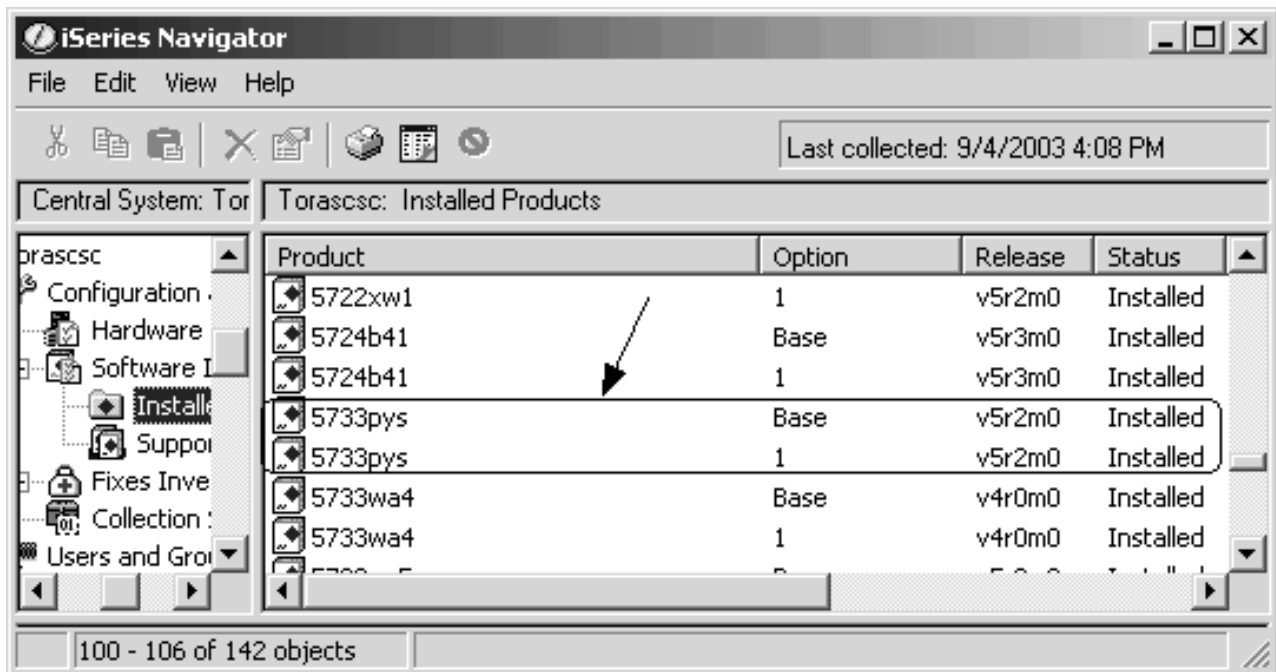
```
CMN7704S: IBM WebSphere Commerce Installer has successfully copied file from
¥tmp¥InstallShield¥uninstall.qsh to
¥qibm¥ProdData¥CommerceServer55¥_uninst¥uninstall.qsh
```

```
CMN7720S: IBM WebSphere Commerce Installer internal Generic Catch Warning caught:
COMMAND ENDED NORMALLY WITH EXIT STATUS 0.
/QIBM/ProdData/CommerceServer55/bin/iSeriesFileAuth.sh
```

このメッセージは、ブックのページ・サイズに合わせてフォーマット設定されません。ログ・ファイルによっては、これとは異なるメッセージが表示されることもあります。

WebSphere Commerce Payments のインストール

WebSphere Commerce Payments コンポーネントをカスタム・インストール時に選択した場合、WebSphere Commerce Payments 製品は iSeries システム上にインストールされます。iSeries ナビゲーターを使用して、この製品がインストールされているかを確認できます。iSeries ナビゲーターへのアクセスに関する詳細については、30 ページの『カスタム・インストールの検証』を参照してください。iSeries ナビゲーターには以下と同様の画面が表示されます。



次のステップ

インストールの検証が完了したら、39ページの『第3部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』の解説に従って、WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments のインスタンスの作成に進んでください。

第 3 部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成

必須のソフトウェアをすべてインストールし終わったら、WebSphere Commerce インスタンスと WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成することができます。これらのインスタンスは、構成マネージャーを使用して作成することができます。

このセクションには、以下の章があります。

- 41 ページの『第 8 章 構成マネージャーを使用してインスタンスを作成または変更する前に』
- 47 ページの『第 9 章 WebSphere Commerce インスタンスの作成』
- 51 ページの『第 10 章 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』

第 8 章 構成マネージャーを使用してインスタンスを作成または変更する前に

構成マネージャーを開始する前に、あるいは構成マネージャーを使用してインスタンスを作成または変更する前に、次の事柄を行ってください。

1. README ファイルで説明されているすべての修正をインストールしてください。README ファイルに関する詳細は、8 ページの『README ファイルの確認』を参照してください。
2. 構成マネージャーの開始に関する前提条件を満たしているか確認してください。前提条件は、42 ページの『構成マネージャーの前提条件』にリストされています。
3. 44 ページの『構成マネージャーの開始』にある説明に従って、構成マネージャーを開始します。

重要

構成マネージャー GUI を使用して (Web サーバー GUI または WebSphere Application Server 管理コンソールは使用しない)、次の Web サーバー・プロパティ、および Commerce 関連プロパティのみを変更してください。

- SSL (使用可能または使用不可)
- Web サーバー・インスタンス名またはポート番号
- SSL ポート番号
- システム IP アドレス (Payments サーバー・ホスト)

これにより、単に Web サーバー構成ファイルだけでなく、すべての構成ファイルが、正しい情報で適切に更新されます。

構成マネージャー・クライアントのインストール

構成マネージャーで WebSphere Commerce インスタンスを作成または変更する前に、構成マネージャー・クライアントを Windows PC にインストールする必要があります。

注: 構成マネージャー・クライアント・コードをインストールするために使用する Windows 2000 マシンに、Service Pack 3 がインストールされていることを確認してください。

構成マネージャー・クライアントを次のようにインストールします。

1. リモート Windows システムの CD-ROM ドライブに WebSphere Commerce - Express を挿入します。

WebSphere Commerce - Express LaunchPad が開始します。LaunchPad の「製品のインストール (Install Product)」オプションは、サーバーのインストールの場合にのみ使用されます。LaunchPad を最小化または終了します。

2. CD-ROM ドライブにナビゲートし、 `iSeriesClient.bat` をダブルクリックして `InstallShield` ウィザードを開始します。
3. インストール言語を選択し、「**OK**」をクリックします。

注: 言語選択は、WebSphere Commerce - Express の各国語バージョンだけで選択可能であり、英語バージョンでは選択できません。

4. 初期画面が表示されるので、「**次へ**」をクリックします。
5. 使用条件を読みます。その契約の条件を受諾する場合、条件の受諾を選択して「**次へ**」をクリックします。
6. デフォルト宛先パス (`C:\Program Files\WebSphere\CommerceServer55`) を選択するか、「**ブラウズ**」で別の宛先パスを選択します。宛先パスを選択すると、「**次へ**」をクリックして続きます。
7. インストールの選択を確認してから、「**次へ**」を選択します。(選択を変更するには、「**戻る**」を選択します。)
8. インストールを開始します。完了したパーセンテージを示すウィンドウが、画面の下部に表示されます。
9. 「InstallShield ウィザード (InstallShield Wizard)」パネルで、「**次へ**」を選択して続きます。
10. 「インストール完了」パネルから、「**次へ**」を選択します。
11. インストールを完了するには、Windows システムを再始動する必要があります。すぐに再始動するか後で再始動するための適切なボタンをクリックしてから、「**終了**」をクリックします。

注: 本書の続くセクションでは、Windows PC の、構成マネージャー・クライアント・コードがインストールされるディレクトリーは `cfgmgr_installdir` と表されます。

構成マネージャーの前提条件

WebSphere Commerce 構成マネージャーを始動する前に、以下を実行してください。

- DDM サーバーが iSeries システムで稼働していることを確認します。このサーバーを始動するには、以下の OS/400 コマンドを実行します。

```
STRTCPSVR SERVER(*DDM)
```

リモート・データベースを使用したインスタンス作成の要件

*LOCAL 以外のリレーショナル・データベースを使用する場合は、データベースをリモート・アクセス用に設定する必要があります。

リモート・データベースを使用するように iSeries システムを構成するには、以下のようになります。

1. 以下のいずれかを使用して、リモート iSeries システム上の DDM TCP/IP サーバーを始動します。
 - iSeries ナビゲーターのリモート iSeries システムの下の「**ネットワーク (Network)**」オプション。
 - 以下の OS/400 コマンドを実行します。

STRTCPSVR SERVER(*DDM)

注: DDM サーバー・ジョブが iSeries で実行しているかどうかをチェックするには、QSYSWRK サブシステムの QRWTLSTN ジョブをチェックします。

2. WebSphere Commerce - Express バージョン 5.5 がインストールされている iSeries システムで、WRKRDBDIRE コマンドを使用して、インスタンスのスキーマが作成されるリモート・データベースのエントリーが存在することを確認します。
3. WebSphere Commerce がインストールされている iSeries システムで、以下のコマンドを 1 行で実行します。

```
RUNJVA CLASS(com.ibm.db2.jdbc.app.DB2PackageCreator)
  PARM('database_name' 'user' 'password')
```

ここで、*database_name* はインスタンスのスキーマが作成されるデータベースの名前で、*user* はリモート iSeries システム上に新規オブジェクトを作成する権限を持つプロファイルです。さらに *password* は、ユーザーに関連付けられたパスワードです。

注: コマンドを実行すると、Java のシェル画面が開きます。コマンドの完了後に、「Java program completed」というメッセージが表示されます。

4. ユーザー・プロファイルをリモート iSeries システム上に作成します。ユーザー・プロファイルは、作成するインスタンス名と同じ名前 (*instance_name*) でなければなりません。ユーザー・プロファイルの言語設定を、ご使用の WebSphere Commerce インスタンスのデフォルト言語として選択する言語と一致するように構成します。

このユーザー・プロファイルのパスワードは、*LOCAL システム上のパスワードと同じでなければなりません。これは、構成マネージャーの「インスタンス・ログオン・パスワード」フィールドを構成する際に入力するパスワードです。

iSeries ユーザー・プロファイルの作成に関する情報は、86 ページの『iSeries ユーザー・プロファイルの作成』を参照してください。

5. リモート iSeries システムで作成したインスタンス・ユーザー・プロファイルが、QGPL ライブラリーの *SQLPKG オブジェクトに対する権限を持っているかどうかを、以下のコマンドを 1 行で実行して確認します。

```
GRTOBJAUT OBJ(QGPL/*ALL) OBJTYPE(*SQLPKG) USER(instance_name)
  AUT(*CHANGE)
```

インスタンス作成の際、WebSphere パネルで「iSeries ツールボックス・ドライバーの使用」を選択することを推奨します。

iSeries ユーザー・プロファイルの変更

DSPUSRPRF コマンドを使用して、SECOFR ユーザー・プロファイルのホーム・ディレクトリー (HOMEDIR) を判別します。HOMEDIR が存在していることを確認します。HOMEDIR が存在しなければ、OS/400 コマンド MKDIR を使用して作成します。

HOMEDIR には、SystemDefault.properties という名前のファイルが置かれていなければなりません。このファイルには 819 というタグが付けられており、ASCII データが入っています。このファイルは、ユーザー・プロファイルに一致した file.encoding プロパティーを指定する必要があります。file.encoding プロパテ

ィーは 1 行でスペースを含めずに指定する必要がある、大文字小文字は区別されま
す。このファイルがすでに存在する場合には、**EDTF** コマンドを使用して
file.encoding プロパティを以下の値のいずれかに設定します。

- 日本語:
file.encoding=SJIS
- 韓国語:
file.encoding=KSC5601
- 中国語 (簡体字):
file.encoding=Cp1381
- 中国語 (繁体字):
file.encoding=Cp950
- 他のすべての言語:
file.encoding=ISO8859_1

このファイルが存在しない場合、以下のコマンドのいずれかを使用して、ファイル
を HOMEDIR にコピーする必要があります。

- 中国語 (簡体字):
COPY OBJ('/QIBM/ProdData/CommerceServer55/config/SystemDefault_CN.properties')
TOOBJ('home_directory/SystemDefault.properties')
TOCCSID(819)
- 韓国語:
COPY OBJ('/QIBM/ProdData/CommerceServer55/config/SystemDefault_KR.properties')
TOOBJ('home_directory/SystemDefault.properties')
TOCCSID(819)
- 中国語 (繁体字):
COPY OBJ('/QIBM/ProdData/CommerceServer55/config/SystemDefault_TW.properties')
TOOBJ('home_directory/SystemDefault.properties')
TOCCSID(819)
- 日本語:
COPY OBJ('/QIBM/ProdData/CommerceServer55/config/SystemDefault_JP.properties')
TOOBJ('home_directory/SystemDefault.properties')
TOCCSID(819)
- 他のすべての言語:
COPY OBJ('/QIBM/ProdData/CommerceServer55/config/SystemDefault.properties')
TOOBJ('home_directory/SystemDefault.properties')
TOCCSID(819)

新規ファイルが作成されたら、その中に適切な ASCII データが含まれることを確認
します。

構成マネージャーの開始

iSeries で WebSphere Commerce 構成マネージャーを開始するには、以下のようにし
ます。

1. 以下のようにして、構成マネージャー・サーバーを始動します。
 - a. iSeries にログオンし、それにプロファイルに *SECOFR ユーザー・クラスが
あり、英語またはインスタンスのデフォルト言語として選択する言語の固有
の設定をセットアップしていることを確認します。

- b. 以下のコマンドを入力して QShell セッションを開始します。

```
STRQSH
```

次に、その QShell セッションで以下のようにします。

- 1) 以下のコマンドを実行して、WebSphere Commerce サーバーの bin ディレクトリーに切り替えます。

```
cd WC_installdir/bin
```

WC_installdir のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

- 2) 以下のコマンドを実行して、構成マネージャー・サーバー・プログラムを開始します。

```
config_server.sh [-port server_port_number]
```

port server_port_number パラメーターはオプションです。このパラメーターを指定しない場合、デフォルト・ポート 1099 が使用されます。構成マネージャー・サーバーは、このポート番号を使用して listen します。

server_port_number を指定する場合には、値は 1024 から 65535 までの間で、現在 iSeries システム上で使用されていないものでなければなりません。

注: ご使用になる 1 次言語がインスタンスを作成した言語と同じではないシステムを使用している場合、QSYSlanguage_feature_number ライブラリーを、ご使用のユーザー・プロファイルのライブラリー・リストに追加する必要があります。追加しないと、プロファイルは QSYS の下からその探索を試みます。言語機能ライブラリーを追加するには、EDTLIBL コマンドを使用します。

- c. システムで初めて構成マネージャーを実行したときには、以下のようなメッセージが表示されます。

```
Attaching Java program to /QIBM/ProdData/CommerceServer55/lib/ConfigManager.JAR.  
Attaching Java program to /QIBM/ProdData/CommercePayments/V55/wc.mpf.ear/lib/ibmjssc.JAR.  
Attaching Java program to /QIBM/ProdData/CommerceServer55/lib/Utilities.JAR.  
Attaching Java program to /QIBM/ProdData/CommerceServer55/lib/Enablement-BaseComponentsLogic.JAR.  
Attaching Java program to /QIBM/ProdData/CommerceServer55/lib/jtopen.JAR.  
Attaching Java program to /QIBM/ProdData/CommerceServer55/lib/xerces.JAR.  
Attaching Java program to /QIBM/ProdData/CommerceServer55/lib/sslite.ZIP.
```

- d. 以下のメッセージが表示されます。

```
Registry created.  
CMServer bound in registry.
```

次のステップに進んでください。

2. 以下のようにして、構成マネージャー・クライアント・コードのインストール先の Windows マシン上の構成マネージャー・クライアントを開始します。

注: 構成マネージャー・クライアント・コードのインストール後に、Windows マシンが再始動したことを確認します。

- a. 構成マネージャーのクライアント・マシンのコマンド・プロンプトを使用して、cfgmgr_installdir/bin ディレクトリーに移動します。
- b. 以下のコマンドを実行して、構成マネージャー・クライアントを開始します。

```
configClient.bat -hostname iSeries_Host_name [-port server_port_number]
```

ここで、

iSeries_Host_name

サーバーの完全修飾ホスト名 (名前はすべて大文字で指定してください)。

server_port_number

構成マネージャーが listen している iSeries サーバーのポート番号。この値を指定する必要があるのは、サーバーがデフォルト以外のポートを listen する場合だけです。ポート・パラメーターはオプションですが、config_server.sh コマンドで指定された場合にはここで指定する必要があります。

- c. 構成マネージャーにログインします。初期 ID は **webadmin** で、初期パスワードは **webibm** です。構成マネージャーに初めてログインしたときには、セキュリティ上の理由からパスワードを変更するように指示されます。
- d. パスワードが受け入れられると、「構成マネージャー」ウィンドウが開きます。
- e. 『次のステップ』に進みます。

構成マネージャーの停止

構成マネージャーを終了するには、以下のようにします。

1. 構成マネージャー GUI で、「コンソール」および「終了」をクリックします。
2. 「セキュリティ上の理由で、Configuration Manager Server を停止します」というメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。
3. 構成マネージャー・クライアントを開始した DOS ウィンドウを終了します。
4. 構成マネージャー・サーバーを開始した iSeries システムで、QSHLL セッションを終了します。

次のステップ

以下のセクションに進みます。

- 47 ページの『第 9 章 WebSphere Commerce インスタンスの作成』
- 51 ページの『第 10 章 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』

第 9 章 WebSphere Commerce インスタンスの作成

この章では、WebSphere Commerce インスタンスの作成方法について説明します。WebSphere Commerce インスタンスの変更については、64 ページの『WebSphere Commerce インスタンスまたは WebSphere Commerce Payments インスタンスの変更』を参照してください。

WebSphere Commerce インスタンス作成時の考慮事項

IBM は、WebSphere Commerce インスタンスをデフォルトの WebSphere Application Server インスタンス内で作成することをお勧めします。WebSphere Commerce インスタンスを作成する場合、完全修飾ホスト名を適切な構成マネージャー・パネルで必ず指定してください。

WebSphere Commerce インスタンスをデフォルトではない WebSphere Application Server インスタンスで作成することも選択できます。そのようなインスタンスを作成すると、WebSphere Commerce インスタンスが開始できなくなるポート競合が生じる場合があります。WebSphere Commerce インスタンスの開始に関する問題のメッセージの例を、次に示します。

EJB6121: Application server did not start.

ご使用の WebSphere Commerce インスタンスを開始しようとする際に問題が起こる場合には、そのインスタンスがデフォルトまたはデフォルトではない WebSphere Application Server インスタンスを使用しているかどうかにかかわらず、91 ページの『付録 A. 既知の問題および制限』にある項目を参照してください。

構成マネージャー GUI を開く際に、同じ WebSphere Application Server インスタンスの下に作成するのであれば、複数の WebSphere Commerce インスタンスを作成できます。異なる WebSphere Application Server インスタンスの下に WebSphere Commerce インスタンスを作成する場合には、その前に、構成マネージャーを停止してから再始動する必要があります。

注: 構成マネージャー・クライアント・コードは複数の Windows PC にインストールできますが、WebSphere Commerce インスタンスまたは WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成する場合には 1 つの PC にいつでも限定する必要があります。同時に複数の PC からインスタンスを作成することはサポートされていません。

新規 WebSphere Commerce インスタンスの作成

新規 WebSphere Commerce インスタンスを作成するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce 構成マネージャーを開始します。詳細については、44 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
2. 「**WebSphere Commerce**」の下、*hostname* を拡張表示します。
3. 「**Commerce**」を拡張表示します。

4. 「インスタンス・リスト」を右マウス・ボタン・クリックします。
5. その結果表示されたポップアップ・メニューから、「インスタンスの作成」を選択します。インスタンス作成ウィザードを開始します。
6. インスタンス作成ウィザードを完了します。



インスタンス作成ウィザードのパネルおよびフィールドを完成させるためのヘルプを参照するには、インスタンス作成ウィザードの「ヘルプ」をクリックします。「ヘルプ」ボタンは、ウィザードの各パネルで使用できます。「ヘルプ」パネルは、サポートされる WebSphere Commerce プラットフォームすべてに適用されます。次のアイコンで表される iSeries 固有のヘルプに従ってください。

400

7. パネル内の必要な情報を完成させると、「終了」ボタンが有効になります。「終了」をクリックして WebSphere Commerce インスタンスを作成します。

インスタンスを作成するのに必要な時間は、システムの速度に応じて異なります。インスタンスの作成を開始する際に表示される進行状況表示バーは、この処理が終了する時を示します。

8. インスタンスの作成が完了したら、要約を示したダイアログ・ボックスが表示されます。「OK」をクリックして、ダイアログ・ボックスをクローズします。
9. 追加の手順を示す他のダイアログ・ボックスが表示されることがあります。その場合はそのダイアログ・ボックスの内容を確認してから閉じてください。
10. 「コンソール」および「終了」をクリックして、構成マネージャーを終了します。
11. 「セキュリティ上の理由で、Config Manager Server を停止します」というメッセージが表示されます。「OK」をクリックして、構成マネージャーをクローズします。
12. 構成マネージャー・クライアントを開始した DOS ウィンドウを終了します。
13. 構成マネージャー・サーバーを開始した iSeries システムで、QShell セッションを終了します。

『インスタンス作成の検証』の手順に従って、WebSphere Commerce インスタンスの作成を検証できます。

インスタンス作成の検証

新規の WebSphere Commerce インスタンスに関する構成情報は、以下のファイルに保管されます。

```
WC_userdir/instances/instance_name/xml/instance_name.xml
```

ここで、WC_userdir のデフォルト値は iv ページの『パス変数』にリストされており、instance_name は WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

インスタンス作成時に生成されたログ・ファイルを検査する前に、このファイルが存在することを確認します。

WebSphere Commerce インスタンスを作成すると、以下のログ・ファイルが生成されます。

- Auction.log
- createdb.log
- createdb.production.log
- GenPluginCfg.log
- messages.txt
- populatedb.err.log
- populatedb.log
- populatedb2.err.log
- populatedb2.log
- populatedbntl.err.log
- populatedbntl.log
- RESWCSID.txt
- Schema.log
- trace.txt
- WASConfig.log
- WASConfig.err.log

これらのファイルは、以下のディレクトリーに置かれています。

`WC_userdir/instances/instance_name/logs`

ここで、`WC_installdir` のデフォルト値は iv ページの『パス変数』にリストされており、`instance_name` は WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

以下のログが空の場合は、インスタンス作成でのデータベースの移植は正常に実行されています。

- populatedb.err.log
- populatedb2.err.log
- populatedbntl.err.log
- WASConfig.err.log

さらに、以下のログの内容を確認し、エラーが含まれていないことを確認します。

- createdb.log
- messages.txt

リモート・データベースの構成の完了

リモート・データベースを使用するようにインスタンスを構成したら、追加の構成を完了する必要があります。リモート・マシン上のインスタンスのユーザー・プロファイルを変更して、インスタンス・ライブラリーを現行ライブラリーに設定します。これらの変更を完了するには、以下のコマンドを実行します。

```
CHGUSRPRF USRPRF(instance_name) CURLIB(instance_name)
```

ここで、`instance_name` は WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

時間帯の設定

WebSphere Commerce インスタンスの作成後、ご使用の WebSphere Commerce インスタンスに対して時間帯を設定する必要があります。

適切な時間帯がご使用のトレース・ファイルに書き込まれるようにするには、`user.timezone` プロパティを設定します。プロパティの構文は以下のとおりです。

```
user.timezone=time_zone
```

ここで、`time_zone` はご使用の時間帯のコードです (たとえば、中央標準時間の CST。他の `time_zone` 値の場合には、このセクションの最後にある Web サイトを参照してください)。

`instance_root/home` ディレクトリーにある `SystemDefault.properties` ファイルを編集します。デフォルトでは、`instance_root` は `WC_userdir/instances/instance_name` を参照します。ここで `WC_userdir` は iv ページの『パス変数』に定義されていて、`instance_name` は構成の際にご使用のインスタンスに提供する名前です。この方法で指定した時間帯プロパティは、WebSphere Application Server のみに影響を与えます。その他の詳細については、以下の Web サイトの『WebSphere Application Server for iSeries Information Center』のトピック『Setting the time zone』を参照してください。

```
http://publib.boulder.ibm.com/series/v1r1m0/websphere/ic2924/index.htm?info/rzaiz/50/trb/trctimez.htm
```

上記の行は、表示のために 2 行に分割していることに注意してください。

次のステップ

WebSphere Commerce インスタンスの構成が完了したら、WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成して先に進むことができます。WebSphere Commerce Payments の作成の手順は、51 ページの『第 10 章 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』に記載されています。WebSphere Commerce Payments はオプションのコンポーネントであり、ストアの発行または実行には不要です。

WebSphere Commerce - Express で FashionFlow サンプル・ストアを発行することを計画している場合、WebSphere Commerce Payments をインストールする必要があります。FashionFlow サンプル・ストアの詳細については、「WebSphere Commerce サンプル・ストア・ガイド」を参照してください。

WebSphere Commerce Payments は、`ExpressStore.sar` ストア・アーカイブ・ファイルの発行には不要です。Express ストアの詳細については、「WebSphere Commerce - Express Easy Start Guide」を参照してください。

第 10 章 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成

この章では、WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成方法について説明します。 WebSphere Commerce Payments インスタンスの変更については、64 ページの『WebSphere Commerce インスタンスまたは WebSphere Commerce Payments インスタンスの変更』を参照してください。

WebSphere Commerce Payments は WebSphere Commerce - Express のオプションのコンポーネントです。これは、ExpressStore.sar ストア・アーカイブ・ファイルの発行には不要です。ただし、FashionFlow サンプル・ストアの発行を計画している場合は必要です。

特定の WebSphere Commerce Payments Cassette の使用に関する詳細は、「WebSphere Commerce Payments Cassette 補足」を参照してください。 WebSphere Commerce Payments Cassette を WebSphere Commerce サンプル・ストアで使用するには、「WebSphere Commerce ストア開発ガイド」を参照してください。

注: 41 ページの『第 8 章 構成マネージャーを使用してインスタンスを作成または変更する前に』で述べられているように、WebSphere Application Server 管理コンソールではなく WebSphere Commerce 構成マネージャーを使用して、WebSphere Commerce Payments ポートのみを変更してください。これにより、すべてのプロパティおよびファイルは同じ情報で更新されます。

WebSphere Commerce Payments インスタンス作成時の考慮事項

IBM は、WebSphere Commerce Payments インスタンスをデフォルトの WebSphere Application Server インスタンス内で作成することをお勧めします。 WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成する場合、完全修飾ホスト名を適切な構成マネージャー・パネルで必ず指定してください。

WebSphere Commerce Payments インスタンスをデフォルトではない WebSphere Application Server インスタンスで作成することも選択できます。そのようなインスタンスを作成すると、WebSphere Commerce Payments インスタンスが開始できなくなるポート競合が生じる場合があります。 WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始に関する問題のメッセージの例を、次に示します。

```
EJB6121: Application server did not start.
```

ご使用の WebSphere Commerce Payments インスタンスを開始しようとする際に問題が起こる場合には、そのインスタンスがデフォルトまたはデフォルトではない WebSphere Application Server インスタンスを使用しているかどうかにかかわらず、91 ページの『付録 A. 既知の問題および制限』にある項目を参照してください。

WebSphere Commerce Payments ポートを変更するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce 構成マネージャーを開始します。手順については、44 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
2. 「**WebSphere Commerce**」の下の、*hostname* を拡張表示します。
3. 「**Payments**」→「インスタント・リスト」→ *payments_instance_name* → 「インスタンス・プロパティ」を拡張表示します。
4. 「**Webserver**」タブをクリックします。
5. 希望するポートを更新します。
6. 「**適用**」をクリックして、変更を適用します。

注: Payments のポートを変更する場合は、WebSphere Application Server 管理コンソールを使用するのではなく、41 ページの『第 8 章 構成マネージャーを使用してインスタンスを作成または変更する前に』の説明に従って、構成マネージャーを使用してください。これにより、すべてのプロパティおよびファイルは同じ情報で更新されます。

WebSphere Commerce 構成マネージャーを開く際に、同じ WebSphere Application Server インスタンスの下に作成するのであれば、複数の WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成できます。異なる WebSphere Application Server インスタンスの下に WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成する場合には、その前に、構成マネージャーを停止してから再始動する必要があります。

注: WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントは複数の Windows システムにインストールできますが、WebSphere Commerce インスタンスまたは WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成する場合には 1 つの PC にいつでも限定する必要があります。同時に複数のシステムからインスタンスを作成することはサポートされていません。

新規 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成

新規 WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成するには、次のようになります。

1. WebSphere Commerce 構成マネージャーを開始します。詳細については、44 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。

WebSphere Commerce Payments が WebSphere Commerce の別のノードにある場合には、構成マネージャー・サーバーを WebSphere Commerce Payments ノード上で必ず開始してください。

2. 「**WebSphere Commerce**」の下の、*hostname* を拡張表示します。
3. 「**Payments**」を拡張表示します。
4. 「**インスタンス・リスト**」を右マウス・ボタン・クリックします。
5. その結果表示されたポップアップ・メニューから、「**Payments インスタンスの作成**」を選択します。Payments インスタンス作成ウィザードを開始します。

6. Payments インスタンス作成ウィザード情報を完成させます。



Payments インスタンス作成ウィザードのパネルおよびフィールドを完成させるためのヘルプを参照するには、インスタンス作成ウィザードの「ヘルプ」をクリックします。「ヘルプ」ボタンは、ウィザードの各パネルで使用できます。「ヘルプ」パネルは、サポートされるすべての WebSphere Commerce プラットフォームに適用されます。次のアイコンで表される iSeries 固有のヘルプに従ってください。

400

重要: WebSphere Commerce Payments インスタンス作成ウィザードを完了する際、「**サイト管理者 ID (Site Admin ID)**」フィールドに入力する値が WebSphere Commerce サイト管理者 ID と同じであることを確認してください。WebSphere Commerce サイト管理者 ID は WebSphere Commerce インスタンスの作成時に作成され、WebSphere Commerce インスタンス作成ウィザードの「**サイト管理者 ID (Site Admin ID)**」フィールドに入力した値です。

7. すべてのパネル内の必要な情報すべてを完成させると、「**終了**」ボタンが有効になります。「**終了**」をクリックして WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成します。

インスタンスを作成するのに必要な時間は、システムの速度に応じて異なります。インスタンスの作成を開始する際に表示される進行状況表示バーは、この処理が終了する時を示します。

8. インスタンスの作成が完了したら、要約を示したダイアログが表示されます。「**OK**」をクリックして、ダイアログ・ウィンドウをクローズします。
9. 「**コンソール**」および「**終了**」をクリックして、構成マネージャーを終了します。
10. 「**セキュリティ上の理由で、Configuration Manager Server を停止します**」というメッセージが表示されたら、「**OK**」をクリックします。
11. 構成マネージャー・クライアントを開始した DOS ウィンドウを終了します。
12. 構成マネージャー・サーバーを始動した iSeries システムの QShell セッションを終了します。

『インスタンスの作成の検証』の手順に従って、WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成を検証できます。

インスタンスの作成の検証

新規の WebSphere Commerce Payments インスタンスに関する構成情報は、以下のファイルに保管されます。

```
WC_userdir/instances/payments_instance_name/xml/  
payments_instance_name.xml
```

ここで、WC_userdir のデフォルト値は iv ページの『パス変数』にリストされており、payments_instance_name は WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

インスタンス作成時に生成されたログ・ファイルを検査する前に、このファイルが存在することを確認します。

WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成すると、Configurator.1.log ファイルが *WC_userdir/instances* ディレクトリーに作成されます。 *WC_userdir* のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

Configurator.1.log ファイルをチェックして、エラーについて確認します。

次のステップ

WebSphere Commerce Payments インスタンスの構成が完了したら、55 ページの『第 4 部 最終ステップ』の解説を参考に、先に進むことができます。

リモート Web サーバーを使用している場合、57 ページの『第 11 章 インスタンス作成後の必須タスク』の説明に従ってください。

第 4 部 最終ステップ

このセクションでは、WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成後に実行する必要がある必須タスクについて概説しています。

このセクションのタスクを完了したら、「*WebSphere Commerce - Express Easy Start Guide*」にある手順に従ってご使用のストアを稼働させる準備ができたこととなります。

第 11 章 インスタンス作成後の必須タスク

ご使用の WebSphere Commerce - Express トポグラフィーに応じて、WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成後、以下のいずれかのセクションのタスクを実行します。

- 『作成後の Web サーバー・タスク』
- 『インスタンス作成後のローカル Web サーバー・タスク』
- 『インスタンス作成後のリモート Web サーバー・タスク』

作成後の Web サーバー・タスク

ご使用の WebSphere Commerce インスタンス HTTP サーバーの SSL (Secure Sockets Layer) の使用可能化に関しては、「*WebSphere Commerce セキュリティー・ガイド*」を参照してください。SSL を使用可能にしないと、WebSphere Commerce インスタンスは正しく開始できません。

iSeries の Digital Certificate Manager (DCM) で、ご使用の HTTP サーバーに証明書を割り当てる必要があります。証明書を割り当てないと、WebSphere Commerce インスタンスは適切に作動しません。詳しくは、iSeries Information Center (<http://publib.boulder.ibm.com/html/as400/infocenter.html>) を参照してください。このサイトで、ご使用のオペレーティング・システムおよび言語を選択します。「SSL 通信セッションのための公開インターネット証明書の管理」というトピックを検索します。

インスタンス作成後のローカル Web サーバー・タスク

Web サーバーを WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments と同じノードにインストールする場合、WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成後、Web サーバーを停止してから再始動する必要があります。

インスタンス作成後のリモート Web サーバー・タスク

Web サーバーを WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments と異なるノードにインストールする場合、WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成してから、次の事柄を実行してください。

1. plugin-cfg.xml を WebSphere Commerce ノードから Web サーバー・ノードにコピーします。手順については、73 ページの『Web サーバーへの plugin-cfg.xml ファイルのコピー』を参照してください。
2. WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments が別々のノードにインストールされている場合には、WebSphere Commerce Payments ノードの plugin-cfg.xml ファイルの内容と Web サーバー・ノードの plugin-cfg.xml の内容をマージします。手順については、73 ページの『WebSphere Commerce Payments の plugin-cfg.xml ファイルのマージ』を参照してください。

3. WebSphere Commerce ノード上の *WAS_installdir* ディレクトリーと一致するディレクトリーを Web サーバー・ノードに作成します (存在しない場合)。
4. 次のディレクトリーを、WebSphere Commerce ノードから Web サーバー・ノードにコピーします。

WAS_userdir/installedApps/cell_name/WC_instance_name.ear

ここで、変数は次のように定義されています。

WAS_userdir

この変数のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

cell_name

これは、WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments がインストールされているマシンの短縮ホスト名です。

instance_name

これは、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

Web サーバー・ノードと WebSphere Commerce ノードの絶対パスは同じであることを確認してください。Web サーバー・ノード上でこのパスを構成するディレクトリーを作成することが必要になる場合があります。

重要

すべての JSP および JAR ファイルを、Web サーバー上の *WC_instance_name.ear* ディレクトリーから除去することが推奨されています。内容が固定されたファイルのみを、Web サーバー上の *WC_instance_name.ear* ディレクトリーに入れるようにしてください。

5. WebSphere Application Server プラグインのパスが Web サーバー・ノードの *httpd.conf* ファイルに正しく表示されていることを確認します。
パスを検査するには、テキスト・エディターで *httpd.conf* ファイルを開き、以下を検索します。
WebSpherePluginConfig

このエントリーには、Web サーバー・ノードの *plugin-cfg.xml* ファイルへの絶対パスを含めてください。パスが間違っている場合、パスを変更して *httpd.conf* ファイルを保管してから、Web サーバーを再始動します。
6. Web サーバーを停止してから再始動します。

第 5 部 インストールおよび管理タスク

このセクションでは、WebSphere Commerce のインストールおよび管理の際に実行する必要のあるさまざまなタスクの手順を説明しています。

第 12 章 WebSphere Commerce のタスク

このセクションでは、WebSphere Commerce をインストールおよび管理する時に完了する必要がある WebSphere Commerce タスクの説明をしています。

WebSphere Commerce インスタンスの開始と停止

WebSphere Commerce インスタンスを開始または停止するには、以下のようになります。

1. Web サーバーが開始済みであることを確認します。
2. 開始したい WebSphere Commerce インスタンス用のアプリケーション・サーバーを開始、停止、または再始動します。アプリケーション・サーバーの開始および停止についての説明は、69 ページの『アプリケーション・サーバーの開始および停止』にあります。

注: 初めてインスタンスを開始する時、開始に時間がかかります。この待ち時間は、Java プログラムに関する情報をキャッシュするために発生します。待ち時間は長くなることがありますが、それ以降の試行では開始時間は改善します。

以下のセクションでは、iSeries 上でコマンド行から WebSphere Commerce インスタンスを開始および停止する方法について説明しています。

WebSphere Commerce インスタンスの開始

WebSphere Commerce インスタンスを開始するために、ユーザー・プロファイルに *JOBCTL 権限がなければなりません。

OS/400 プラットフォーム上で WebSphere Commerce インスタンスを開始するには、以下のようになります。

1. 以下を実行して、WebSphere Application Server サブシステムが開始されていることを確認します。
 - a. OS/400 コマンド・セッションを開始します。
 - b. 以下のコマンドを実行します。

WRKSBS

- c. 実行中のサブシステムのリストに、以下のサブシステムが表示されることを確認します。

QEJBAS5

実行中のサブシステムのリストに QEJBAS5 サブシステムが表示されない場合は、WebSphere Commerce インスタンスを開始する前に、このサブシステムを開始する必要があります。QEJBAS5 サブシステムの開始に関する説明は、71 ページの『QEJBAS5 サブシステムの開始』を参照してください。

2. 以下のコマンドを入力して QShell セッションを開始します。

STRQSH

WebSphere Commerce インスタンスをデフォルトの WebSphere Application Server アプリケーション・サーバーで開始する場合には、QShell セッションで以下を入力します。

```
WAS_installdir/bin/startServer WC_instance_name  
[-instance WAS_instance_name]
```

-instance *WAS_instance_name* パラメーターは、このコマンドのオプションです。

たとえば、デフォルトの WebSphere Application Server アプリケーション・サーバーで demo1 WebSphere Commerce インスタンスを開始するには、以下のように入力します。

```
WAS_installdir/bin/startServer WC_demo1
```

たとえば、デフォルトの WebSphere Application Server アプリケーション・サーバーで server1 インスタンスを開始するには、以下のように入力します。

```
WAS_installdir/bin/startServer server1
```

(QEJBAS5 サブシステムが開始される時、server1 は自動的に開始されるという点に注意してください。)

たとえば、demo2was WebSphere アプリケーション・サーバーで demo2 WebSphere Commerce インスタンスを開始するには、以下のように入力します。

```
WAS_installdir/bin/startServer WC_demo2 -instance demo2was
```

WebSphere Commerce インスタンスの停止

WebSphere Commerce インスタンスを停止するために、ユーザー・プロファイルに *JOBCTL 権限がなければなりません。

OS/400 プラットフォーム上で WebSphere Commerce インスタンスを停止するには、以下のようになります。

1. 以下のコマンドを入力して QShell セッションを開始します。

```
STRQSH
```

2. 以下の例では、QShell セッションで WebSphere Application Server stopServer コマンドを使用して WebSphere Commerce インスタンスを停止する方法を示します。

- デフォルトの WebSphere Application Server インスタンスで WebSphere Commerce インスタンスを停止するには、以下のようになります。

```
WAS_installdir/bin/stopServer WC_instance_name [-instance WAS_instance_name]
```

-instance *WAS_instance_name* パラメーターは、このコマンドのオプションです。

- この例では、デフォルトの WebSphere Application Server で demo1 WebSphere Commerce インスタンスを停止します。

```
WAS_installdir/bin/stopServer WC_demo1
```

- この例では、デフォルトの WebSphere Application Server で server1 インスタンスを停止します。

```
WAS_installdir/bin/stopServer server1
```

- この例では、demo2was WebSphere Application Server アプリケーション・サーバーで demo2 WebSphere Commerce インスタンスを停止します。

```
WAS_installdir/bin/stopServer WC_demo2 -instance demo2was
```

WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始と停止

WebSphere Commerce Payments インスタンスを開始または停止するには、以下のようになります。

1. Payments Web サーバーが開始済みであることを確認します。
2. 構成マネージャーを開始します。構成マネージャーの開始に関する手順は、44 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
3. 構成マネージャーの **WebSphere Commerce** の下で、「ホスト名」→「**Payments**」→「**インスタンス・リスト**」の順に拡張表示します。
4. 開始または停止したい WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前を右マウス・ボタン・クリックします。
 - WebSphere Commerce Payments インスタンスを開始するには、ポップアップ・メニューから「**Payments インスタンスの開始**」を選択します。「インスタンスは正常に開始されました」ダイアログが表示されたら、「**OK**」をクリックしてダイアログを消します。
 - WebSphere Commerce Payments インスタンスを停止するには、ポップアップ・メニューから「**Payments インスタンスの停止**」を選択します。

注: 初めてインスタンスを開始する時、開始に時間がかかります。この待ち時間は、Java プログラムに関する情報をキャッシュするために発生します。待ち時間は長くなるありますが、それ以降の試行では開始時間は改善します。

QShell セッションからの WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始と停止

以下は、WebSphere Commerce Payments インスタンスを開始または停止するための 2 つの代替方法です。いずれの方法でも、必ず WebSphere Commerce Payments インスタンスを開始する前に WebSphere Commerce Payments Web サーバーを開始してください。

パスワードが提供されない場合

この場合、不在再始動 がオンに設定されており、パスワードは不要です。インスタンスを開始するには、以下のようになります。

1. QShell セッションから、*WAS_installdir/bin* ディレクトリーにトラバースします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
startServer payments_instance_name_Commerce_Payments_Server  
-instance WAS_instance_name
```

インスタンスを停止するには、以下のようになります。

1. QShell セッションから、*WAS_installdir/bin* ディレクトリーにトラバースします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
stopServer payments_instance_name Commerce_Payments_Server
-instance WAS_instance_name
```

パスワードが提供される場合

この場合、**不在再始動** がオフに設定されており、パスワードが必要です。インスタンスを開始するには、以下のようにします。

1. QShell セッションから、*Payments_installdir/bin* ディレクトリーにトラバースします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
IBMPayServer payments_instance_name password
```

ここで、*payments_instance* は Payments インスタンス名で、*password* は対応する Payments インスタンス・パスワードです。

インスタンスを停止するには、以下のようにします。

1. QSH から、*Payments_installdir/bin* ディレクトリーにトラバースします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
StopIBMPayServer payments_instance_name password
```

WebSphere Commerce インスタンスまたは WebSphere Commerce Payments インスタンスの変更

WebSphere Commerce インスタンスのいずれかの構成設定を変更したい場合、構成マネージャーから行うことができます。

構成マネージャーを使用して WebSphere Commerce インスタンスを更新するには、以下のようにします。

1. 構成マネージャーを開始します。構成マネージャーの開始に関する手順は、44 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
2. インスタンスのリストから、構成するインスタンスを選択し、設定を変更するノードを選択します。構成マネージャーのさまざまなフィールドやパネルについての情報は、構成マネージャーのオンライン・ヘルプを参照してください。
3. インスタンスの更新後、「**適用**」をクリックして変更を適用します。
4. 変更が正常に適用された時、構成マネージャー・クライアントを終了します。これにより、構成マネージャー・サーバーも終了します。
5. 変更したインスタンスを再始動します。

WebSphere Commerce インスタンスの削除

WebSphere Commerce インスタンスを削除するには、以下のようにします。

1. WebSphere Commerce が停止していることを確認します。WebSphere Commerce の停止についての説明は、61 ページの『WebSphere Commerce インスタンスの開始と停止』を参照してください。
2. QShell セッションから以下のコマンドを実行して WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーを削除します。

```
WC_installdir/bin/rmCommerceServer.sh instance_name
```


ここで *instance_name* は、削除する WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

WC_installdir のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

重要

WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーの名前ではなく、必ず WebSphere Commerce インスタンスの名前を入力してください。

WebSphere Commerce インスタンスの名前が *instance_name* である場合、WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーの名前は **WC_instance_name** です。

WC_instance_name を使用すると、エラー・メッセージを受け取ります。

3. 以下のようにして、構成マネージャーから WebSphere Commerce インスタンスを削除します。
 - a. 構成マネージャーを開始します。構成マネージャーの開始に関する手順は、44 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
 - b. 構成マネージャーの **WebSphere Commerce** の下で、「*hostname*」→「**Commerce**」→「**インスタンス・リスト**」の順に拡張表示します。
 - c. 削除するインスタンスを右マウス・ボタン・クリックし、「**インスタンスの削除**」を選択します。
 - d. 処理が完了したら構成マネージャーを終了します。
4. 削除する WebSphere Commerce インスタンスに関連した WebSphere Commerce スキーマを除去します。

スキーマ・データが他の目的で必要とされる場合は、次のステップに進みます。WebSphere Commerce スキーマを除去するには、QShell セッションから以下のコマンドを実行します。

```
db2 "drop schema instance_name"
```

ここで *instance_name* は、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

注: 別の OS/400 セッションから、QShell セッション用に通知される可能性があるメッセージをモニターします。OS/400 コマンド WRKSBSJOB QINTER を使用できます。

5. 以下のディレクトリーを削除します。

```
WC_userdir/instances/instance_name
WAS_userdir/logs/WC_instance_name
WAS_userdir/config/temp/cells/cell_name/applications/WC_instance_name.ear
WAS_userdir/config/temp/cells/cell_name/nodes/node_name/servers/
    WC_instance_name
WAS_userdir/temp/cell_name/WC_instance_name
WAS_userdir/tranlog/WC_instance_name
```

ここで *instance_name* は、削除する WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

6. QUSRSYS ライブラリー内の QATMHINSTC ファイルの HTTP 項目を削除します。
この項目の形式は *instance_name* ですが、*instance_name* は削除する WebSphere Commerce インスタンスの名前です。
7. 以下の OS/400 コマンドを使用して、インスタンスに関連したユーザー・プロフィールを削除します。

```
DLTUSRPRF USRPRF(instance_name) OWNBJOPT(*DLT)
```


ここで *instance_name* は、削除する WebSphere Commerce インスタンスの名前です。
8. WebSphere Commerce インスタンスの削除後に他の WebSphere Application Server アプリケーション・サーバーを使用する予定の場合、WebSphere Application Server プラグイン構成ファイルを再生成する必要があります。
WebSphere Application Server プラグイン構成ファイルの再生成に関する情報は、72 ページの『WebSphere Application Server Web サーバー・プラグイン構成ファイルの再生成』を参照してください。

WebSphere Commerce Payments インスタンスの削除

WebSphere Commerce Payments インスタンスを削除するには、以下のようになります。

1. WebSphere Commerce Payments が停止していることを確認します。手順については、63 ページの『WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始と停止』を参照してください。
2. 以下のようにして、構成マネージャーから WebSphere Commerce Payments インスタンスを削除します。
 - a. 構成マネージャーを開始します。構成マネージャーの開始に関する手順は、44 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
 - b. 構成マネージャーの **WebSphere Commerce** の下で、「**ホスト名**」 → 「**Payments**」 → 「**インスタンス・リスト**」の順に拡張表示します。
 - c. 削除するインスタンスを右マウス・ボタン・クリックし、「**Payments インスタンスの削除**」を選択します。
 - d. 処理が完了したら構成マネージャーを終了します。

このステップでは、WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバーも削除されます。

3. 削除する WebSphere Commerce Payments インスタンスに関連した WebSphere Commerce Payments スキーマを除去します。 WebSphere Commerce Payments スキーマを除去する場合、QShell セッションから以下のコマンドを実行します。

```
db2 "drop schema payments_instance_name"
```

payments_instance_name は WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

注: 別の OS/400 セッションから、QShell セッション用に通知される可能性があるメッセージをモニターします。 OS/400 コマンド WRKSBSJOB QINTER を使用できます。

4. 以下のディレクトリーが存在する場合、それらを削除します。

```
WC_userdir/instances/payments_instance_name  
WAS_userdir/logs/payments_instance_name_Commerce_Payments_Server  
Payments_userdir/instances/payments_instance_name
```

ここで *payments_instance_name* は、削除する WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

5. WebSphere Commerce Payments インスタンスの削除後に他の WebSphere Application Server アプリケーション・サーバーを使用する予定の場合、WebSphere Application Server プラグイン構成ファイルを再生成する必要があります。WebSphere Application Server プラグイン構成ファイルの再生成に関する情報は、72 ページの『WebSphere Application Server Web サーバー・プラグイン構成ファイルの再生成』を参照してください。

第 13 章 WebSphere Application Server のタスク

このセクションでは、WebSphere Commerce をインストールおよび管理する時に完了する必要がある WebSphere Application Server タスクの説明をしています。

アプリケーション・サーバーの開始および停止

iSeries 上でアプリケーション・サーバーを開始または停止するには、次のようになります。

1. 以下を実行して、WebSphere Application Server サブシステムが開始されていることを確認する。

- a. OS/400 コマンド・セッションを開始する。
- b. 以下のコマンドを実行する。

```
WRKSBS
```

- c. 実行中のサブシステムのリストに、以下のサブシステムが表示されることを確認する。

```
QEJBAS5
```

実行中のサブシステムのリストに QEJBAS5 サブシステムが表示されない場合は、アプリケーション・サーバーを開始する前に、このサブシステムを開始する必要があります。サブシステムの開始に関する説明は、71 ページの『WebSphere Application Server サブシステムの開始』を参照してください。

2. OS/400 コマンド行から以下を入力して QShell セッションを開始する。

```
QSH
```

3. 以下のいずれかを行う。

- アプリケーション・サーバーを開始するには、以下のコマンドを発行する。

```
WAS_installdir/bin/startServer application_server_name  
-instance WAS_instance_name
```

- アプリケーション・サーバーを停止するには、以下のコマンドを発行する。

```
WAS_installdir/bin/stopServer application_server_name  
-instance WAS_instance_name
```

application_server_name

開始するアプリケーション・サーバーの名前です。

アプリケーション・サーバー名	説明
<i>WC_instance_name</i>	WebSphere Commerce アプリケーション・ サーバー
<i>payments_instance_name_Commerce_Payments_Server</i>	WebSphere Commerce Payments アプリケーショ ン・サーバー

ここで、*instance_name* は WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

WAS_instance_name

アプリケーション・サーバーを開始する WebSphere Application Server インスタンスの名前です。デフォルトの WebSphere Application Server インスタンスは、*default* です。

デフォルトの WebSphere Application Server インスタンス内でアプリケーション・サーバーを開始する場合、*-instance server_name* パラメーターはこのコマンドのオプションとなります。たとえば、以下のコマンドを入力します。

WAS_installdir/startServer application_server_name

application_server_name

開始するアプリケーション・サーバーの名前です。いくつかの共通アプリケーション・サーバー

アプリケーション・サーバー名	説明
<i>WC_instance_name</i>	WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー
<i>payments_instance_name_Commerce_Payments_Server</i>	WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバー

ここで、*instance_name* は WebSphere Commerce インスタンスの名前であり、*payments_instance_name* は WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

WebSphere Application Server 管理コンソールの開始

WebSphere Application Server 管理コンソールを開始する前に、デフォルトの WebSphere Application Server アプリケーション・サーバー (*server1*) を開始する必要があります。手順については、69 ページの『アプリケーション・サーバーの開始および停止』を参照してください。

Web ブラウザーをオープンし、以下の URL を入力することにより、WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンする。

`http://hostname:port/admin`

または

`https://hostname:port/admin`

ここで、*hostname* は WebSphere Application Server を実行中のマシンの完全修飾 TCP/IP 名で、*port* は WebSphere Application Server 管理コンソールの TCP/IP ポートです。

WebSphere Application Server 管理コンソールのデフォルト・ポートは、URL で指定されたプロトコルに依存しています。http プロトコルの場合、デフォルト・ポートは、9090 です。https プロトコルの場合、デフォルト・ポートは、9043 です。

WebSphere Application Server サブシステムの開始

WebSphere Application Server サブシステムを開始するために、ユーザー・プロファイルに *JOBCTL 権限がなければなりません。

iSeries で WebSphere Application Server サブシステムを開始するには、次のようにします。

1. Transmission Control Protocol/Internet Protocol (TCP/IP) を開始する。 OS/400 コマンド行で、以下のコマンドを発行します。

```
STRTCP
```

2. OS/400 コマンド行から以下のコマンドを実行することにより、QEJBAS5 サブシステムを開始する。

```
STRSBS SBS(D(QEJBAS5/QEJBAS5))
```

デフォルトの WebSphere Application Server インスタンスが自動的に開始されます。デフォルトのアプリケーション・サーバー・インスタンスのジョブは、*server1* です。

詳しくは、『QEJBAS5 サブシステムの開始』および『QEJBAS5 サブシステムの終了』を参照してください。

QEJBAS5 サブシステムの開始

いずれかの WebSphere Commerce インスタンスを開始するには、WebSphere Application Server サブシステムが iSeries マシン上で実行されていない必要があります。QEJBAS5 サブシステムが実行中であるかをチェックするには、以下のステップを行います。

1. iSeries サーバーにログオンする。
2. OS/400 コマンド行から次のように入力する。

```
WRKSBS
```

3. QEJBAS5 サブシステムが実行中であることを確認する。実行中でない場合、OS/400 コマンド行から以下のコマンドを発行する。

```
STRSBS QEJBAS5/QEJBAS5
```

4. サブシステムが開始したことを確認するため、以下を OS/400 コマンド行から入力する。

```
WRKACTJOB SBS(QEJBAS5)
```

サブシステムは、実行中のジョブ SERVER1 と共に表示されます。

これで 61 ページの『WebSphere Commerce インスタンスの開始』に説明されているように、WebSphere Commerce インスタンスを開始できます。

QEJBAS5 サブシステムの終了

QEJBAS5 サブシステムを終了するため、すべての WebSphere Commerce インスタンス、WebSphere Commerce Payments インスタンス、およびデフォルトではない WebSphere Application Server アプリケーションを停止する必要があります。システム上で実行中のインスタンスを停止するため、以下の適切なセクションを参照してください。すべてのジョブが停止したことを確認するため、以下を OS/400 コマンド行から入力します。

WRKACTJOB SBS(QEJBAS5)

サブシステムが表示され、そのサブシステム内で他のジョブはアクティブになっていないはずです。

OS/400 コマンド行で以下を入力することにより、QEJBAS5 サブシステムを終了できるようにします。

ENDSBS QEJBAS5

WebSphere Application Server Web サーバー・プラグイン構成ファイルの再生成

Web サーバー・プラグインを再生成するには、WebSphere Commerce ノード上で以下のようにします。

1. Web サーバーに備えられている資料に従って、Web サーバーを停止する。
2. 開始済みでない場合、デフォルトのアプリケーション・サーバーである `server1` を開始する。説明については、69 ページの『アプリケーション・サーバーの開始および停止』を参照してください。
3. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンする。手順については、70 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
4. ナビゲーション領域で「**環境 (Environment)**」を拡張表示し、「**Web サーバー・プラグインの更新 (Update Web Server Plugin)**」をクリックする。
5. 「**OK**」をクリックして新規 `plugin-cfg.xml` ファイルを生成する。
6. プラグインが更新された時、メッセージ・ボックスが以下のエントリーを通知する。
The web server plugin configuration was updated successfully
7. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了する。
8. WebSphere Commerce Payments が別のノード上にある場合、これらすべてのステップを WebSphere Commerce Payments ノードで繰り返す。

Web サーバー・ノードが WebSphere Commerce ノードまたは WebSphere Commerce Payments ノードから離れている場合、以下を行う必要があります。

1. プラグインを WebSphere Commerce ノードから Web サーバー・ノードにコピーする。
2. WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments が別個のノードにある場合、WebSphere Commerce Payments プラグインを WebSphere Commerce プラグインにマージする。

第 14 章 リモート Web サーバー・タスク

このセクションでは、WebSphere Commerce とは異なるノードで実行している Web サーバーを使用する場合に、実行する必要のあるタスクについて説明します。

注: WebSphere Application Server 5.0 製品も、Web サーバーが実行しているのと同じノードにインストールする必要があります。

Web サーバーへの plugin-cfg.xml ファイルのコピー

plugin-cfg.xml ファイルをリモート Web サーバーにコピーするには、以下を行います。

1. Web サーバーに付属する資料に従って Web サーバーを停止します。
2. WebSphere Commerce ノードにある以下のファイルを Web サーバー・ノードの同じロケーションにコピーします。

`WAS_userdir/config/cells/plugin-cfg.xml`

`WAS_userdir` のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされていません。

重要: plugin-cfg.xml ファイルにはディレクトリー固有の情報が含まれます。ファイルを Web サーバー・ノードの同じディレクトリー構造にコピーしない場合、Web サーバーは正しく機能せず、WebSphere Commerce にアクセスできなくなります。

3. WebSphere Application Server プラグインのパスが、Web サーバー・ノード上の `httpd.conf` ファイルに正しく示されていることを確認します。

パスを検査するには、テキスト・エディターで `httpd.conf` ファイルを開き、以下を検索します。

```
WebSpherePluginConfig
```

このエントリーには、Web サーバー・ノード上の `plugin-cfg.xml` ファイルへの絶対パスが含まれていなければなりません。パスが誤っている場合、パスを変更してから `httpd.conf` ファイルを保管します。

4. Web サーバーに付属する資料に従って Web サーバーを開始します。

別々のノード上で WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments のカスタム・インストールを処理する場合、『WebSphere Commerce Payments の plugin-cfg.xml ファイルのマージ』に進みます。

WebSphere Commerce Payments の plugin-cfg.xml ファイルのマージ

WebSphere Commerce Payments plugin-cfg.xml ファイルを Web サーバー plugin-cfg.xml ファイルとマージするには、以下のようになります。

1. Web サーバーに付属する資料に従って Web サーバーを停止します。

2. Web サーバー・ノードで、テキスト・エディターで `plugin-cfg.xml` ファイルを開きます。 `plugin-cfg.xml` ファイルの絶対パスは以下のとおりです。

`WAS_userdir/config/cells/plugin-cfg.xml`

`WAS_userdir` のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

3. WebSphere Commerce Payments ノードから `plugin-cfg.xml` ファイルをテキスト・エディターで開きます。 `plugin-cfg.xml` ファイルの絶対パスは以下のとおりです。

`WAS_userdir/config/cells/plugin-cfg.xml`

4. WebSphere Commerce Payments の `plugin-cfg.xml` ファイル内で以下のテキストを見つけます。

```
<VirtualHostGroup Name="VH_PYM_instance_name">
  <VirtualHost Name="short_host_name:5432"/>
  <VirtualHost Name="host_name:5432"/>
</VirtualHostGroup>
```

変数は以下のように定義されます。

instance_name

これは WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

short_host_name

これは WebSphere Commerce Payments ノードの短いホスト名です。

host_name

これは WebSphere Commerce Payments ノードの完全修飾ホスト名です。

5. このセクションを Web サーバーの `plugin-cfg.xml` ファイルにコピーします。このセクションを、既存の同じタイプのエントリーの下に挿入します。
6. WebSphere Commerce Payments の `plugin-cfg.xml` ファイル内で以下のテキストを見つけます。

```
<ServerCluster Name="instance_name_Commerce_Payments_Server_short_host_name_Cluster">
  <Server Name="instance_name_Commerce_Payments_Server">
    <Transport Hostname="IP_address" Port="9081" Protocol="http">
    <Transport Hostname="IP_address" Port="9091" Protocol="http">
  </Server>
  <PrimaryServers>
    <Server Name="instance_name_Commerce_Payments_Server">
  </PrimaryServers>
</ServerCluster>
```

変数は以下のように定義されます。

instance_name

これは WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

short_host_name

これは WebSphere Commerce Payments ノードの短いホスト名です。

IP_address

これは WebSphere Commerce Payments ノードの TCP/IP アドレスです。

- このセクションを Web サーバーの `plugin-cfg.xml` ファイルにコピーします。このセクションを、既存の同じタイプのエントリーの下に挿入します。
- WebSphere Commerce Payments の `plugin-cfg.xml` ファイル内で以下のテキストを見つけます。

```
<UriGroup Name="VH_PYM_instance_name_instance_name_Commerce_Payments_Server_short_host_name_Cluster_URIs">
  <Uri AffinityCookie="JSESSIONID" Name="/webapp/SampleCheckout/*">
  <Uri AffinityCookie="JSESSIONID" Name="/webapp/PaymentManager/*">
</UriGroup>
```

変数は以下のように定義されます。

instance_name

これは WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

short_host_name

これは WebSphere Commerce Payments マシンの短い (完全修飾ではない) ホスト名です。

- このセクションを Web サーバーの `plugin-cfg.xml` ファイルにコピーします。このセクションを、既存の同じタイプのエントリーの下に挿入します。
- WebSphere Commerce Payments の `plugin-cfg.xml` ファイル内で以下のテキストを見つけます。

```
<Route ServerCluster="instance_name_Commerce_Payments_Server_short_host_name_Cluster"
  UriGroup="VH_PYM_instance_name_instance_name_Commerce_Payments_Server_short_host_name_Cluster_URIs"
  VirtualHostGroup="VH_PYM_instance_name"/>
```

変数は以下のように定義されます。

instance_name

これは WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

short_host_name

これは WebSphere Commerce Payments マシンの短い (完全修飾ではない) ホスト名です。

- このセクションを Web サーバーの `plugin-cfg.xml` ファイルにコピーします。このセクションを、既存の同じタイプのエントリーの下に挿入します。
- 変更を保管して、テキスト・エディターを終了します。
- Web サーバーに付属する資料に従って Web サーバーを開始します。

ストア発行後のタスク

リモート Web サーバーを使用する場合、WebSphere Commerce でストアを発行するたびに以下を行う必要があります。

- Web サーバー・ノード上の `Stores.war` ディレクトリーの内容を、WebSphere Commerce 上の `Stores.war` ディレクトリーの内容に置き換えます。
両方のノードの `Stores.war` ディレクトリーへの絶対パスは以下のとおりです。

```
WAS_userdir/installedApps/cell_name/WC_instance_name.ear/Stores.war
```

変数は iv ページの『パス変数』および iv ページの『本書の使用変数』で定義されます。WebSphere Commerce インスタンスの作成後に、`WC_instance_name.ear` ディレクトリーは、Web サーバー・ノードにコピーされているはずですが、

第 15 章 パスワードの設定および変更

WebSphere Commerce のほとんどのコンポーネントは、オペレーティング・システムによって検証されたユーザー ID およびパスワードを使用します。これらのパスワードの変更について詳しくは、ご使用のオペレーティング・システムの資料を参照してください。この章では、オペレーティング・システムを通してユーザー ID およびパスワードを検証しない WebSphere Commerce コンポーネントの、パスワードの設定および変更方法について説明します。

構成マネージャー・パスワードの変更

構成マネージャーを起動する際に、ユーザー ID およびパスワードを入力したウィンドウで「変更」をクリックすることによって、構成マネージャー・パスワードを変更できます。

別の方法で、構成マネージャー・パスワードを変更するには、QShell セッションで以下のコマンドを発行します。

1. 以下のように `wcs_encrypt` ユーティリティを実行します。

```
cd WC_installdir/bin  
  
wcs_encrypt.sh new_password
```

`new_password` は、構成マネージャーの新規パスワードです。新規パスワードの暗号化されたバージョンは、上のコマンドを実行することによって生成されません。

2. `WC_userdir/instances` ディレクトリーにある `PwdMgr.xml` ファイルを開きます。
3. 上のステップ 1 で生成された暗号化されたパスワードを使用して、`LoginPassword` フィールドを変更します。
4. 変更を保管します。

WebSphere Commerce サイト管理者パスワードの変更

WebSphere Commerce 管理コンソールを使用することによってパスワードを変更できます。

WebSphere Commerce 管理コンソールを使用してパスワードを変更するには、以下のようにします。

1. WebSphere Commerce 管理コンソールを始動します。
2. WebSphere Commerce インスタンスを作成したら、サイト管理者 ID およびパスワードでログオンします。
3. 「パスワード変更」チェック・ボックスを選択して、「ログオン」をクリックします。「パスワード変更」ページが表示されます。
4. 「旧パスワード」フィールドで、現在の管理コンソール・ログオン・パスワードを入力します。このフィールドは英数字で 128 文字まで入力できます。

5. 「新規パスワード」フィールドで、新規のログオン・パスワードを入力します。このフィールドは英数字で 128 文字まで入力できます。
6. 「新規パスワードの確認」フィールドで、パスワードを再入力します。
7. 「変更」をクリックして、新規パスワードを保管します。「ストアおよび言語の選択」ページが表示されます。
8. WebSphere Commerce 管理コンソールを終了します。

サイト管理者パスワードのリセット

サイト管理者パスワードを忘れてしまい、パスワードをリセットしたい場合、以下のようにします。

1. QShell セッションを始動します。
2. QShell セッションから、以下のコマンドを発行します。

```
WC_installdir/bin/chgwcpwd.sh -database WC_database_name  
-schema WC_schema_name -instance WC_instance_profile_name  
-instancePwd WC_instance_profile_pwd -merKey WC_merchant_key  
-wcsUser site_admin_ID -wcsUserPwd new_site_admin_pwd  
[-oneWayHash true_or_false]
```

変数およびパラメーターは以下のように定義されます。

WC_installdir

この変数のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

-database *WC_database_name*

このパラメーターは、WebSphere Commerce リレーショナル・データベースの名前を指定します。

-schema *WC_schema_name*

このパラメーターは、WebSphere Commerce インスタンスがあるスキーマの名前を指定します。これは、WebSphere Commerce インスタンスの名前と同じである場合があります。

-instance *WC_instance_profile_name*

このパラメーターは、WebSphere Commerce インスタンスと関連した iSeries ユーザー・プロファイルの名前を指定します。このプロファイル名は、通常 WebSphere Commerce インスタンスと同じ名前になります。

-instancePwd *WC_instance_profile_pwd*

これは、WebSphere Commerce インスタンス・ユーザー・プロファイルと関連したパスワードです。

-merKey *WC_merchant_key*

このパラメーターは、WebSphere Commerce インスタンスが作成される際に定義される WebSphere Commerce マーチャント鍵を指定します。

-wcsUser *site_admin_ID*

このパラメーターは、WebSphere Commerce サイト管理者用の ID を指定します。

-wcsUserPwd *new_site_admin_pwd*

このパラメーターは、WebSphere Commerce サイト管理者に割り当てたい新規パスワードを指定します。

`-oneWayHash true_or_false`

このパラメーターはオプションです。このパラメーターが指定されていない場合、`true` の値は `-oneWayHash` パラメーターに対して想定されません。

WebSphere Commerce - Express バージョン 5.5 はパスワード暗号化用に一方方向ハッシュを使用します。このパラメーターのデフォルト値を使用するようお勧めします。

サイト管理者 ID のリカバリー

WebSphere Commerce インスタンスが作成された際に定義されたサイト管理者 ID を忘れてしまい、サイト管理者として権限が与えられた ID がほかにない場合、サイト管理者 ID を以下の手順でリカバリーできます。

1. これがインストールされている Windows システムから iSeries ナビゲーターを始動します。
2. 「データベース」を拡張表示します。
3. WebSphere Commerce インスタンスのスキーマがあるリレーショナル・データベースの名前を右マウス・ボタン・クリックしてから、「**SQL スクリプトの実行**」を選択します。「**SQL スクリプトの実行**」ウィンドウが開きます。
4. ウィンドウで以下の SQL ステートメントを入力します。

```
SELECT LOGONID FROM schema_name.USERREG WHERE USERS_ID=-1000
```

schema_name は、ご使用の WebSphere Commerce インスタンスがあるスキーマの名前です。

このステートメントは、サイト管理者 ID を戻します。

第 16 章 Web サーバーのタスク

この章では、iSeries で Web サーバーを開始および停止する方法を説明します。WebSphere Commerce Configuration Manager などの他のコンポーネントを開始および停止する方法については、44 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。WebSphere Commerce インスタンスや WebSphere Commerce Payments など、他の WebSphere Commerce コンポーネントを開始および停止する方法については、61 ページの『第 12 章 WebSphere Commerce のタスク』を参照してください。

IBM HTTP Server の開始および停止

IBM HTTP Server インスタンスの開始

WebSphere Commerce インスタンスに関連した 1 つの IBM HTTP Server インスタンスがあります。IBM HTTP Server 名は、WebSphere Commerce インスタンスと同じ名前になります。たとえば、WebSphere Commerce インスタンスが demo1 であると、IBM HTTP Server 名も demo1 になります。

WebSphere Commerce Payments がインストール済みの場合、WebSphere Commerce Payments インスタンスに関連したもう 1 つの IBM HTTP Server インスタンスがあります。IBM HTTP Server インスタンスは、WebSphere Commerce Payments インスタンスと同じ名前を持ちます。たとえば、WebSphere Commerce Payments が wpm であると、IBM HTTP Server インスタンスも wpm になります。

IBM HTTP Server インスタンスは、OS/400 コマンド行と Web ブラウザーのどちらからでも開始することができます。

OS/400 コマンド行から IBM HTTP Server インスタンスを開始するには、次のようにします。

1. QSECOFR クラス権限をもったユーザーとして iSeries マシンにログオンします。
2. コマンド行で、以下を入力します。

```
STRTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(instance_name)
```

または

```
STRTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(payments_instance_name)
```

Web ブラウザーから IBM HTTP Server インスタンスを開始するには、次のようにします。

1. OS/400 コマンド行に以下を入力して、HTTP Administrator サーバー・インスタンスが実行中であることを確認します。

```
WRKACTJOB SBS(QHTTPSVR)
```

サブシステムに ADMIN ジョブがあることを確認してください。HTTP Administrator サーバー・インスタンスが実行中でない場合、OS/400 コマンド行に以下を入力して開始します。

```
STRTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(*ADMIN)
```

2. HTTP Administrator サーバー・インスタンスがアクティブになったら、以下の URL に進みます。

```
https://iSeries_host_name:2010
```

ただし 2010 は Web 構成サーバーのポート、 *iSeries_host_name* は iSeries マシンの完全修飾ホスト名です。非セキュア HTTP Administrator サーバーをポート 2001 で実行している場合、この URL を以下の URL で置き換えます。

```
http://iSeries_host_name:2001
```

非セキュア・ポートを使用する場合、パスワードおよびその他の情報は暗号化されません。

3. 「**IBM HTTP Server for iSeries**」をクリックします。
4. 「**管理 (Manage)**」タブをクリックします。
5. 処理する特定のサーバーを選択します。
6. 「**スタート**」 (画面の下にあります) をクリックします。
7. メッセージ領域を調べて、インスタンスの開始で問題がないことを確認します。
8. 確認するには、OS/400 コマンド行に以下を入力します。

```
WRKACTJOB SBS(QHTTPSVR)
```

そして、**Subsystem/Job** ヘッダーの下の Web サーバー・インスタンスのエントリーと、**User** ヘッダーの下の QTMHHTTP のエントリーを見つけます。

IBM HTTP Web サーバー・インスタンスの停止

IBM HTTP Server インスタンスは、OS/400 コマンド行と Web ブラウザーのどちらからでも停止することができます。

OS/400 コマンド行から IBM HTTP Server インスタンスを停止するには、次のようにします。

1. QSECOFR クラス権限をもったユーザーとして iSeries マシンにログオンします。
2. コマンド行で、以下を入力します。

```
ENDTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(instance_name)
```

または

```
ENDTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(payments_instance_name)
```

Web ブラウザーからいずれかのインスタンスを停止するには、次のようにします。

1. 以下の URL を入力します。

```
https://iSeries_host_name:2010
```

注: 非セキュア HTTP Administrator サーバーをポート 2001 で実行している場合、この URL を以下の URL で置き換えます。

```
http://iSeries_host_name:2001
```

非セキュア・ポートを使用する場合、パスワードおよびその他の情報は暗号化されません。

2. 「**IBM HTTP Server for iSeries**」をクリックします。
3. 「**管理 (Manage)**」タブをクリックします。
4. 処理する特定のサーバーを選択します。
5. 「**停止**」(画面の下にあります)をクリックします。
6. メッセージ領域を調べて、インスタンスの停止で問題がないことを確認します。
7. 確認するには、OS/400 コマンド行に以下を入力します。

```
WRKACTJOB SBS(QHTTPSVR)
```

そして、**Subsystem/Job** ヘッダーの下に Web サーバー・インスタンスのエントリーがないことと、**User** ヘッダーの下に QTMHHTTP がないことを確認します。

IBM HTTP administrator の開始および停止

HTTP Administrator サーバー・インスタンスを開始するには、以下のようになります。

1. QSECOFR クラス権限をもったユーザーとして iSeries マシンにログオンします。
2. コマンド行で、以下を入力します。

```
STRTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(*ADMIN)
```

3. 確認するには、OS/400 コマンド行に以下を入力します。

```
WRKACTJOB SBS(QHTTPSVR)
```

サーバーの開始が正常に完了したかどうかを確認するには、**Subsystem/Job** ヘッダーの下の **ADMIN** エントリーと、**User** ヘッダーの下の **QTMHHTTP** エントリーを調べます。

HTTP Administrator サーバーのポート番号は 2010 です。

注: さらに、HTTP Administrator サーバー・インスタンスの非セキュア接続用にポート 2001 も使用できます。非セキュア・ポートを使用する場合、パスワードおよびその他の情報は暗号化されません。

HTTP Administrator サーバー・インスタンスを停止するには、以下のようになります。

1. QSECOFR クラス権限をもったユーザーとして iSeries マシンにログオンします。
2. コマンド行で、以下を入力します。

```
ENDTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(*ADMIN)
```

3. 確認するには、OS/400 コマンド行に以下を入力します。

```
WRKACTJOB SBS(QHTTPSVR)
```

そして、**Subsystem/Job** ヘッダーの下に **ADMIN** のエントリーがないことと、**User** ヘッダーの下に **QTMHHTTP** がないことを確認します。

HTTP Administrator サーバーのポート番号は 2010 です。

注: さらに、HTTP Administrator サーバー・インスタンスの非セキュア接続用にポート 2001 も使用できます。非セキュア・ポートを使用する場合、パスワードおよびその他の情報は暗号化されません。

第 17 章 WebSphere Commerce を管理する際に必要なユーザー ID

WebSphere Commerce 環境での管理にはさまざまなユーザー ID が必要になります。これらのユーザー ID はその必要権限とともに下のリストで説明されています。 WebSphere Commerce ユーザー ID の場合、デフォルトのパスワードが識別されます。

iSeries ユーザー・プロファイル

2 つの iSeries ユーザー・プロファイルが使用され、WebSphere Commerce をインストールおよび構成する場合に頻繁に参照されます。:

- WebSphere Commerce をインストールして構成マネージャーを開始するために、作成および使用するユーザー・プロファイル。 WebSphere Commerce をインストールおよび構成するには、iSeries ユーザー・プロファイル USRCLS(*SECOFR) または QSECOFR ユーザー・プロファイルを使用する必要があります。ユーザー・プロファイルを作成する必要がある場合には、86 ページの『iSeries ユーザー・プロファイルの作成』を参照してください。
- WebSphere Commerce インスタンスを作成する際に、構成マネージャーによって作成されるユーザー・プロファイル。このユーザー・プロファイルは、「インスタンス・ユーザー・プロファイル」とも呼ばれます。 WebSphere Commerce インスタンスを作成するたびに、ユーザー・プロファイル USRCLS(*USER) が構成マネージャーによって作成されます。

構成マネージャー・ユーザー ID

構成マネージャー・ツールのグラフィカル・インターフェースを使用すると、WebSphere Commerce の構成方法を変更することができます。デフォルトの構成マネージャー・ユーザー ID およびパスワードは、webadmin および webibm です。

構成マネージャーへは、WebSphere Commerce と同じネットワーク上にあり、構成マネージャー・クライアントがインストールされているマシンからアクセスできます。

WebSphere Commerce サイト管理者

サイト管理者ユーザー ID およびパスワードは、以下の WebSphere Commerce ツールに適用されます。

WebSphere Commerce アクセラレーター

Windows オペレーティング・システムを実行するマシンから WebSphere Commerce アクセラレーターにアクセスするには、Internet Explorer Web ブラウザーを開き、以下の URL を入力します。

`https://host_name:8000/accelerator`

WebSphere Commerce 管理コンソール

Windows オペレーティング・システムを実行するマシンから

WebSphere Commerce 管理コンソールにアクセスするには、Internet Explorer Web ブラウザーを開き、以下の URL を入力します。

`https://host_name:8002/adminconsole`

WebSphere Commerce 組織管理コンソール

Windows オペレーティング・システムを実行するマシンから WebSphere Commerce 組織管理コンソールにアクセスするには、Internet Explorer Web ブラウザーを開き、以下の URL を入力します。

`https://host_name:8004/orgadminconsole`

WebSphere Commerce インスタンスの作成中にサイト管理者の初期ユーザー ID およびパスワードが指定されます。 WebSphere Commerce では、サイト管理者パスワードは以下の規則に従ったものでなければなりません。

- パスワードは少なくとも 8 文字の長さである必要があります。
- パスワードには少なくとも 1 つの数字が含まれている必要があります。
- パスワードには同じ文字を 5 つ以上含めることはできません。
- パスワードは同じ文字を 4 回以上繰り返すことはできません。

iSeries ユーザー・プロファイルの作成

WebSphere Commerce をインストールする前に、QSECOFR ユーザー・プロファイル、または USRCLS(*SECOFR) の iSeries ユーザー・プロファイルへのアクセス権限があることを確認します。このユーザー・プロファイルは 65535 以外の CCSID を持っている必要があります、英語の言語設定、またはご使用のインスタンス用に選択するデフォルトの言語と一致した言語設定のいずれかを持っている必要があります。

iSeries ユーザー・プロファイルを作成する必要がある場合、OS/400 コマンド行または iSeries Access のいずれかを使用できます。コマンド行を使用する場合、以下の手順でユーザー・プロファイルを作成します。

1. CRTUSRPRF を入力します。
2. プロンプト用に PF4 を押します。
3. 必要なパラメーターを完了してから、Enter を押してユーザー・プロファイルを作成します。

iSeries Access を使用する場合、以下の手順でユーザー・プロファイルを作成します。

1. ナビゲーション・ツリーで、新規ユーザーを作成したい iSeries サーバーをダブルクリックします。
2. 「ユーザーおよびグループ」をダブルクリックします。
3. 「全ユーザー」をクリックします。iSeries の全ユーザーのリストは右パネルに表示されます。
4. 「全ユーザー」を右マウス・ボタン・クリックしてから、「新規ユーザー」を選択します。「新規ユーザー」ウィンドウが開きます。
5. 必要な情報を入力してから、「追加」を押してからユーザー・プロファイルを作成します。

iSeries ユーザー・プロファイルは、以下のローカライズ設定とともに作成しなければなりません。

表 2. iSeries ユーザー・プロファイル用のローカライズ設定

言語	CCSID	LangID	CountryID
英語	37	ENU	US
フランス語	297	FRA	FR
ドイツ語	273	DEU	DE
イタリア語	280	ITA	IT
スペイン語	284	ESP	ES
ブラジル・ポルトガル語	37	PTB	BR
日本語	5035	JPN	JP
韓国語	933	KOR	KR
中国語 (繁体字)	937	CHT	TW
中国語 (簡体字)	935	CHS	CN

上で定義されたユーザー・プロファイル以外の iSeries ユーザー・プロファイルを使用しても作動する場合がありますが、それらはテストされていません。

第 6 部 付録

付録 A. 既知の問題および制限

このセクションでは、WebSphere Commerce に関する既知の問題および制限を扱っています。この資料の作成後に明らかになった問題または制限については、README ファイルを参照してください。

追加のトラブルシューティング情報は、WebSphere Application Server の WebSphere Commerce 用のトレース機能をオンにすることによって収集できます。トレース機能について詳しくは、「*WebSphere Commerce 管理ガイド*」を参照してください。

Web サーバー問題および制限

セキュア (HTTPS) URL が作動しない

WebSphere Commerce 用のセキュア URL のいずれかが作動しない場合、Web サーバーの SSL 証明書が欠落しているか、有効期限が切れている可能性があります。

SSL 証明書のインストールおよび更新について詳しくは、Web サーバー資料を参照してください。

WebSphere Commerce インスタンスの問題および制限

WebSphere Commerce インスタンスが正常に開始しない

WebSphere Commerce インスタンスを開始しようとするといくつかの理由で失敗する場合があります。このインスタンスは QShell セッション内の iSeries システムで開始されるので、インスタンスが正常に開始しないときに以下のエラーが通知される場合があります。

```
EJB6121: Application server did not start.
```

WebSphere Commerce インスタンスの始動に関する主な問題のいくつかを以下にリストします。

- インスタンス名が正しく入力されていない可能性があります。

大文字小文字の両方をサポートする iSeries システムでは、startServer コマンドを呼び出す場合に *instance_name* または *payments_instance_name* に正しい大文字小文字を入力することが必要です。たとえば、*instance_name* が demostore として定義されていて、以下のコマンドを入力するとします。

```
startServer WC_DEMOSTORE
```

この場合、インスタンスは開始しません。

ログ・ファイル *WAS_userdir/logs/WC_demostore/native_stdout.log* で、以下のエラー・メッセージが通知されます。

```
WSVR0004E: The server name, WC_DEMOSTORE, is not a valid name.  
WSVR0009E: Error occurred during startup.
```

QShell セッションに戻り、startServer コマンドに対して正しく大文字小文字が区別された *instance_name* が指定されていることを確認します。

- ポートが競合している可能性があります。 *WAS_userdir/logs/WC_instance_name* ディレクトリーにある SystemOut.log ファイルを調べます。

ポートが競合していることを示す、以下のようなメッセージが記録されている場合があります。

```
SRVE0146E: Failed to Start Transport on host, port 9093.  
The most likely cause is that the port is already in use.
```

```
NMSV0011E: Unable to start bootstrap server using port 9810.  
Verify that no servers or other processes are already using the bootstrap  
server port.
```

```
ADMC0015W: SOAP connector failed to start with exception: Address already  
in use.
```

ポート競合の問題を訂正するには、iSeries システムですでに実行しているポート番号と競合しない、別のポート番号を選択する必要があります。OS/400 コマンド行で以下のコマンドを実行します。

```
NETSTAT *CNN
```

コマンドは、現在システム上でアクティブになっているポートのリストを戻します。選択したポート番号が、iSeries システム上の別のアプリケーションによって使用されていないことを確認します。

注: 5 ページの『WebSphere Commerce - Express によって使用されるポート番号』を参照して、WebSphere Commerce によってすでに予約済みであるポートを選択しないようにします。

新規のポート番号を決定してから、以下を実行します。

1. Web ブラウザーから、WebSphere Application Server 管理コンソールに進みます。詳細については、70 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
2. ユーザー ID を入力して、「OK」をクリックします。
3. 左側で、「サーバー」を拡張表示して、「アプリケーション・サーバー」をクリックします。
4. ポートが競合しているアプリケーション・サーバーのリンクをクリックします。
5. 次のページに、「一般プロパティ」および「追加プロパティ」が表示されます。「追加プロパティ」のリストまでスクロールダウンします。
6. SystemOut.log ファイルに通知されたメッセージに応じて、Transport Port または End Point Port の変更が必要にある場合があります。
メッセージが Transport port に関する問題を示している場合、「Web コンテナー」 → 「HTTP トランスポート」をクリックします。
メッセージがブートストラップ、SOAP 接続または別のポートに関する問題を示している場合、「エンドポイント」をクリックします。
7. HTTP トランスポートの場合、「ホスト」列の下の該当するリンクをクリックします。

エンドポイントの場合、「エンドポイント名」列の下の該当するリンクをクリックします。

8. ポート番号を新規ポート番号に変更します。「適用」をクリックします。
9. メッセージ・ボックスに以下のメッセージが通知されているはずです。

Changes have been made to your local configuration. Click Save to apply changes to the master configuration.

10. メッセージ・ボックスで、「保管」をクリックします。
11. 「マスター構成に保管」メッセージ・ボックスが表示されます。このメッセージ・ボックス内の「保管」ボタンをクリックします。
12. 保管が完了したら、管理コンソールのホーム・ページが表示されます。
13. 左側で、「環境」を拡張表示して、「サーバー・プラグインの更新」をクリックします。
14. 「OK」をクリックして、プラグイン構成ファイルを更新します。
15. プラグインが更新されたら、メッセージ・ボックスに以下のエントリが通知されます。
The web server plugin configuration was updated successfully.
16. 管理コンソールからログアウトし、WebSphere Commerce インスタンスを再始動します。

コンソール・インストールの使用上の注意

WebSphere Commerce - Express をインストールする際に、コンソール・インストール方式を使用する場合は、以下の点に注意してください。

- [n] がほとんどの選択行の末尾に表示されます。この n は、選択項目のデフォルト選択を表します。たとえば、以下の行はデフォルトの選択が「Next (次へ)」パネルであることを示しています。

Press 1 for Next panel, 3 to Cancel or 4 to Redisplay [1]

Enter を押して、この選択を受け入れて「Next (次へ)」パネルに進むことができます。パネルをキャンセルまたは再表示したい場合、有効な選択番号を入力して、Enter を押します。

- 選択項目の番号を入力するときは、カーソルの位置を変えないでください。番号の前に余分のスペースを挿入すると、エラー・メッセージが出されます。
- インストールを続行していくと、5250 画面上で一部の情報がスクロールオフしてしまいます。その場合、ページを元に戻せば、その情報を表示することができます。スクロールする可能性がある情報が含まれるセクションは次のとおりです。
 - 「ウェルカム」ページ
 - ソフトウェア使用許諾契約書
 - インストール・タイプの選択
 - インストール・オプションの確認ページ
- 画面の左側にある大記号 (>) は選択が行われたことを表します。

- パネルの中には、複数の選択が可能なものもあります。該当する選択番号を入力すれば、選んだとおりの選択内容が示されます。同じ選択項目を再度選択すると、その項目は選択リストから除去されます。すべての選択を完了したら、次のパネルへの移動を選択します。
- WebSphere Application Server 製品を WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments とともにインストールすると、WebSphere Application Server 製品の CD を挿入するよう求められます。メッセージは以下のようなものです。
IBM WebSphere Application Server CD を挿入して、CD-ROM ドライブの場所を指定してください。
CD-ROM ドライブの場所を指定する必要はありません。 WebSphere Commerce - Express のインストールを開始したのと同じ CD-ROM ドライブに CD を挿入します。
- WebSphere Application Server 製品をインストールすると、完了のパーセンテージを示すステータス・バーが表示されます。2 枚目の WebSphere Application Server CD を挿入すると、元のステータス・バーは完了状態ではなくなります。その代わりに、左側から始まる別の行上に追加の垂直バーが表示されます。
- 一部の各国語のインストールの場合、WebSphere Commerce と WebSphere Application Server インストールの両方でステータス・バーが垂直バーとして表示されます。
- WebSphere Application Server 製品のインストールが完了すると、以下のメッセージが表示されます。
Insert the IBM WebSphere Commerce - Express CD 1 and specify the location of the CD-ROM drive below.
CD-ROM ドライブの場所を指定する必要はありません。 WebSphere Application Server のインストールを開始したのと同じ CD-ROM ドライブに CD を挿入します。
- WebSphere Commerce のインストールが完了したら、F3 キーで PASE セッションを終了します。

WebSphere Commerce Payments インスタンスの問題および制限

リモート WebSphere Commerce Payments インスタンスが作動しない

リモート WebSphere Commerce Payments インスタンスが作動しない場合、WebSphere Commerce Payments インスタンスが正しく構成されていない可能性があります。

WebSphere Commerce Payments の構成を検査するには、以下のようにします。

1. WebSphere Commerce ノードで、テキスト・エディターで以下のファイルを開きます。

```
WC_userdir/instances/WC_instance_name/xml/  
WC_instance_name.xml
```

ここで *WC_instance_name* は WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

WC_userdir のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

2. 以下のテキストを検索します。

```
<PaymentManager
```

3. 見つかったテキストの下の Hostname エントリーが WebSphere Commerce Payments によって使用される Web サーバー・ノードを指していることを確認します。

エントリーには、Web サーバー・ノードの完全修飾ホスト名が含まれている必要があります。

4. 変更を保管して、テキスト・エディターを終了します。

5. WebSphere Commerce Payments ノードで、テキスト・エディターで以下のファイルを開きます。

```
Payments_userdir/instances/payments_instance_name/xml/  
Payments_instance_name.xml
```

payments_instance_name は WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

Payments_userdir のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

6. 以下のテキストを検索します。

```
<PMWCSRealm
```

7. 見つかったテキストの下の Hostname エントリーが WebSphere Commerce によって使用される Web サーバー・ノードを指していることを確認します。

エントリーには、Web サーバー・ノードの完全修飾ホスト名が含まれている必要があります。

8. 変更を保管して、テキスト・エディターを終了します。

9. WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments を再始動します。手順については、61 ページの『第 12 章 WebSphere Commerce のタスク』を参照してください。

WebSphere Commerce Payments インスタンスが開始しない

WebSphere Application Server がポート 9090 以外のポートを使用するよう構成されている場合、WebSphere Commerce Payments インスタンスは開始しません。

これが問題の原因であるかどうかを確認するには、以下のようになります。

1. テキスト・エディターで以下を開きます。

```
WAS_userdir/logs/payments_instance_name_Commerce_Payments_Server/  
SystemOut.log
```

payments_instance_name は WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

WAS_userdir のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

2. ファイルを検索して以下のメッセージを探します。

SRVE0146E: Failed to Start Transport on host *, port 9090.

このエラー・メッセージがあった場合、WebSphere Commerce Payments ポートを変更します。手順については、51 ページの『WebSphere Commerce Payments インスタンス作成時の考慮事項』を参照してください。

このエラー・メッセージがない場合には、IBM サポート担当員に連絡してください。

付録 B. WebSphere Commerce コンポーネントのアンインストール

この章では、さまざまな WebSphere Commerce コンポーネントのアンインストール方法について説明します。

WebSphere Commerce のアンインストール

注: WebSphere Commerce を iSeries システムからアンインストールすると、Payments 製品が同じ iSeries システム上にインストールされている場合、WebSphere Commerce Payments もアンインストールすることになります。

WebSphere Commerce をアンインストールするには、以下のようになります。

1. 次のコマンドを入力して QShell セッションを開始します。

```
STRQSH
```

2. 現行ディレクトリーを WebSphere Commerce uninstall ディレクトリーに変更します。

```
cd WC_installdir/_uninst
```

3. 以下のアンインストール・コマンドを実行します。

```
uninstall.qsh
```

4. ウェルカム・メッセージが表示されたら、「**1**」を押して次の画面に進みます。
5. WebSphere Commerce ディレクトリーにはアンインストールされるフィーチャーが表示されます。**Enter** を押してアンインストールを開始します。

注: リストには OS/400 に特有ではないフィーチャーや、OS/400 エントリーと重複するフィーチャーが多く含まれています。これらの余分のエントリーは無視することができ、アンインストール中は問題を引き起こすことはありません。

6. WebSphere Commerce のアンインストールは「Uninstalling product...」というメッセージで開始されます。
7. アンインストールが完了すると、次のメッセージが表示されます。「The InstallShield Wizard has successfully uninstalled IBM WebSphere Commerce. Choose Finish to exit the wizard.」

Enter を押してウィザードを終了します。

8. **F3** ファンクション・キーを押して QShell セッションを終了します。

`WC_installdir` のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントのアンインストール

構成マネージャー・クライアントがインストールされている Windows PC 上で構成マネージャー・クライアントをアンインストールするには、次のようになります。

1. `cfgmgr_installdir` ディレクトリーへとナビゲートします。 `cfgmgr_installdir` は構成マネージャー・クライアントがインストールされているディレクトリーです。
2. `cfgmgr_installdir` ディレクトリーで、 `_uninst` ディレクトリーへナビゲートします。
3. `uninstall.exe` ファイルをダブルクリックします。
4. WebSphere Commerce ウィンドウが表示されます。希望する言語を選択してから、「OK」をクリックします。

注: 言語選択は、WebSphere Commerce - Express の各国語バージョンだけで選択可能であり、英語バージョンでは選択できません。

5. ウェルカム・ページで、「次へ」をクリックします。
6. 次の画面で `cfgmgr_installdir` ディレクトリーが表示されます。
7. 「次へ」をクリックして、構成マネージャー・クライアント・コードのアンインストールを開始します。
8. InstallShield ウィザードで「終了」をクリックしてウィザードをクローズします。

この方法以外に、Windows PC の「コントロール パネル」から「アプリケーションの追加と削除」オプションを使用することもできます。「変更と削除」をクリックすると、プログラムのアンインストールが始まります。上記のステップ 4 から 8 を続けて実行してください。

注: `cfgmgr_installdir` ディレクトリーはアンインストール完了後も残ります。この時点で、Windows PC 上でこのディレクトリーを削除できます。

WebSphere Application Server のアンインストール

WebSphere Application Server のアンインストールに関して詳しくは、以下の @server iSeries WebSphere Application Server のライブラリーに用意されているインストールと初期構成に関する資料を参照してください。

<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/software/websphere/wsappserver/docs/docws50.html>

WebSphere Application Server Network Deployment のアンインストール

WebSphere Application Server Network Deployment のアンインストールに関して詳しくは、以下の @server iSeries WebSphere Application Server Network Deployment のライブラリーに用意されているインストールと初期構成に関する資料を参照してください。

<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/software/websphere/wsappserver/docs/docnd50.html>

WebSphere Commerce とそのコンポーネントの再インストール

WebSphere Commerce パッケージ全体を再インストールする場合は、21 ページの『第 2 部 WebSphere Commerce のインストール』の指示に従ってください。

WebSphere Commerce の一部を再インストールする場合は、25 ページの『第 6 章 カスタム・インストールの実行』を参照してください。39 ページの『第 3 部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』の指示に従って、インスタンスを削除してから再作成する必要があります。

付録 C. 情報の入手場所

WebSphere Commerce システムおよびそのコンポーネントについての詳細情報は、さまざまな情報源から異なるフォーマットで入手できます。以下のいくつかのセクションは、入手できる情報やそれにアクセスする方法を示しています。

WebSphere Commerce 情報

以下は、WebSphere Commerce 情報の情報源です。

- WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ
- WebSphere Commerce Technical Library

WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ

WebSphere Commerce オンライン情報は、WebSphere Commerce のカスタマイズ、管理、および再構成に関する主要な情報源です。WebSphere Commerce をインストールした後、以下の URL にアクセスするとオンライン情報のトピックにアクセスすることができます。

`https://host_name:8000/wchelp/`

また、`host_name` は、iv ページの『本書の使用変数』で定義された、ご使用の WebSphere Commerce インスタンスの完全修飾ホスト名です。

WebSphere Commerce Technical Library

WebSphere Commerce Technical Library は以下の URL から利用できます。

`http://www.ibm.com/software/commerce/library/`

本書のコピー、および本書の更新されたバージョンは、WebSphere Commerce Web サイトのライブラリー・セクションで PDF ファイルとして入手できます。加えて、新規および更新された資料を WebSphere Commerce Technical Library Web サイトから入手することもできます。

WebSphere Commerce Payments 情報

WebSphere Commerce Payments のヘルプは、以下のヘルプ・アイコンをクリックして入手できます。



このヘルプ・アイコンは、WebSphere Commerce 管理コンソールおよび WebSphere Commerce アクセラレーター内の WebSphere Commerce Payments ユーザー・インターフェース、および以下の URL のスタンドアロン WebSphere Commerce Payments ユーザー・インターフェースに表示されます。

`http://host_name:http_port/webapp/PaymentManager`

または

`https://host_name:ssl_port/webapp/PaymentManager`

変数は以下のように定義されます。

host_name

WebSphere Commerce Payments と関連した Web サーバーの完全修飾 TCP/IP ホスト名。

http_port

WebSphere Commerce Payments が使用する HTTP ポート。デフォルトの HTTP ポートは 5432 です。

ssl_port

WebSphere Commerce Payments が使用する SSL ポート。デフォルトの SSL ポートは 5433 です。

WebSphere Commerce Payments が SSL 対応である場合、どちらの URL を使用することもできます。 WebSphere Commerce Payments が SSL 対応でない場合、非セキュア URL (`http`) だけしか使用できません。

ヘルプは以下の URL でも入手できます。

`http://host_name:http_port/webapp/PaymentManager/language/docenter.html`

または

`https://host_name:ssl_port/webapp/PaymentManager/language/docenter.html`

変数は以下のように定義されます。

host_name

WebSphere Commerce Payments と関連した Web サーバーの完全修飾 TCP/IP ホスト名。

http_port

WebSphere Commerce Payments が使用する HTTP ポート。デフォルトの HTTP ポートは 5432 です。

ssl_port

WebSphere Commerce Payments が使用する SSL ポート。デフォルトの SSL ポートは 5433 です。

language

ヘルプ・ページが表示される言語の言語コード。ほとんどの言語が 2 文字です。言語コードは以下のとおりです。

言語	コード
ドイツ語	de
英語	en
スペイン語	es
フランス語	fr
イタリア語	it
日本語	ja

言語	コード
韓国語	ko
ブラジル・ポルトガル語	pt
中国語 (簡体字)	zh
中国語 (繁体字)	zh_TW

WebSphere Commerce Payments および Payments Cassette に関する詳細情報は、WebSphere Commerce Technical Library で入手できます。

<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>

IBM HTTP Server 情報

IBM HTTP Server 情報は、IBM HTTP Server Web サイトで入手できます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/httpservers/>

資料は HTML 形式、PDF ファイル、またはその両方です。

WebSphere Application Server 情報

WebSphere Application Server 情報は、WebSphere Application Server InfoCenter で入手できます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/infocenter.html>

DB2 Universal Database 情報

DB2 ドキュメンテーションは、DB2 Technical Library で入手できます。

<http://www.ibm.com/software/data/db2/library/>

SQL ステートメントについては、以下の Web サイトに掲載されている「DB2 Universal Database for iSeries SQL Reference」を参照してください。

<http://publib.boulder.ibm.com/html/as400/infocenter.html>

他の IBM 資料

ほとんどの IBM 資料は、IBM 認定販売店または営業担当員から購入することができます。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む。) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

*IBM Canada Ltd.
Office of the Lab Director
8200 Warden Avenue
Markham, Ontario
L6G 1C7
Canada*

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

商標

IBM ロゴ および以下は、IBM Corporation の商標です。

400 [®]	AS/400	AS/400e
DB2	DB2 Universal Database	@server
IBM	iSeries	Lotus
OS/2	OS/400	WebSphere

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。